

特15-804

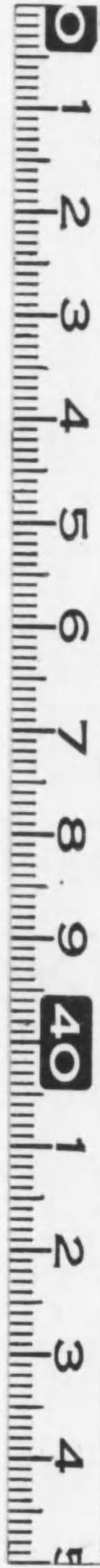


1200800140783

海軍砲術學校檢閱濟

掌砲要務

259
149



始



特15
804

掌砲要務正誤(一)

本書各部ニ於ケル各種砲ノ名稱ハ左記ノ如ク正誤ヲ要ス

誤	正
<p>四十五口径十二吋安砲 四十五口径十二吋昆砲 四十五口径吳式十二吋砲 四十二口径十二吋安砲 十二吋露砲 三十二吋加砲 三十吋五露砲 三十吋五克廣伯砲 四十五口径十吋安砲 四十五口径十吋昆砲 四十五口径十吋露砲 四十口径十吋安砲 九吋露砲 四十五口径安式八吋速射砲 四十五口径吳式八吋速射砲 四十五口径安式十五吋速射砲</p>	<p>四十五口径安式十二吋砲 四十五口径吳式十二吋砲 四十五口径吳式十二吋砲 四十口径安式十二吋砲 四十口径露式十二吋砲 加式三十二吋砲 露式三十吋五砲 克式三十吋五砲 四十五口径安式十吋砲 四十五口径吳式十吋砲 四十五口径露式十吋砲 四十口径安式十吋砲 露式九吋砲 四十五口径安式八吋砲 四十五口径吳式八吋砲 四十五口径安式六吋砲</p>



掌 砲 要 務

目 次

凡 例

軍艦職員勤務令拔萃	一
海軍兵備品會計規則	一一
海軍兵備品會計規程	一一
兵備品出納受拂帳簿諸證憑用紙書式	二〇
兵器經理規程	五〇
同書式	五九
兵器造修試驗檢查規則	七〇
四季及小演習用消耗兵器年額表	八四
艦營需品經理規程	八七
同書式	九八
砲術長主管兵備品(兵器、艦營需品)出納受拂取扱要旨凡例	一一七

四十五口徑馬式十五拇速射砲
 四十五口徑吳式十五拇速射砲
 四十五口徑露式十五拇速射砲
 四十口徑安式十五拇速射砲
 四十五口徑安式十二拇速射砲
 四十口徑安式十二拇速射砲
 五十口徑露式十二斤速射砲
 四十口徑安式十二斤速射砲
 四十口徑一號式十二斤速射砲
 四十口徑四十一一年式十二斤速射砲
 一號式短十二斤速射砲
 五十七密米保式速射砲
 五十七密米山內速射砲
 四十七密米保式重速射砲
 四十七密米山內重速射砲
 四十七密米露式重速射砲
 四十七密米保式輕速射砲
 四十七密米山內輕速射砲
 三十七密米保式速射砲

四十五口徑馬式六吋砲
 四十五口徑吳式六吋砲
 四十五口徑露式六吋砲
 四十口徑安式一號六吋砲
 四十口徑安式二號六吋砲
 四十口徑安式三號六吋砲
 四十五口徑安式四吋七砲
 四十口徑安式四吋七砲
 五十口徑露式三吋砲
 四十口徑安式三吋砲
 四十口徑一號三吋砲
 四十口徑四一式三吋砲
 一號短三吋砲
 保式六吋砲
 山內六吋砲
 保式三吋砲
 山內三吋砲
 露式三吋砲
 保式二吋半砲
 山內二吋半砲
 保式一吋砲

砲術長主管兵備品出納受拂取扱要旨	一一八
砲術長主管兵器出納受拂取扱要旨	一二九
同書式記註方實例	一四六
砲術長主管艦營需品出納受拂取扱要旨	二二五
同書式記註方實例	二二七
兵器簿様式	三〇四
艦營需品定額表様式	三二四
砲術要誌様式	三二五
大砲放發年報取扱事項	三三〇
艦艇現狀報告ニ關スル事項	三三七
野砲小銃及拳銃射擊規則	三三九
驗濕器説明及使用法	三五四
彈藥庫及水雷藥庫注水裝置取扱心得	三五九
戰時中兵器特別取扱ノ件	三六一
艦艇兵裝工事分擔區分ノ件	三六二

大砲水雷等ノ覆交付方ノ件	三六四
供用兵器ハ豫定兵器簿中モ増減シ得サル件	三六四
莖底換栓ハ打殼藥莖ト共ニ還納スヘキ件	三六五
還納藥莖洗淨ニ關スル注意ノ件	三六五
連射砲打殼藥莖符號ノ件	三六五
兵器經理規程ニ基ク取扱方ノ件	三六六
兵器出納受拂ニ關スル注意ノ件	三六八
兵器亡失毀損其他ニ關スル報告書式ノ件	三七〇
艦船兵器修理改造新設等ニ關スル審査并ニ注意ノ件	三七二
艦船及兵器修理引換等施行手續拔萃	三七四
艦船兵器修理請求及施行手續拔萃	三七五
追加工事請求ニ對シテハ需ニ應セラレサル場合アルノ件	三七六
橫須賀海軍工廠造兵部武庫ニ於ケル兵器ノ授受供給等ニ關スル事務取扱方ノ件	三七六
三十五年式海軍銃修理及引換等ニ關スル件	三七七
彈藥火工品類ノ消耗及故障ヲ生シタルトキ報告方ノ件	三七七

四

豫後備役下士卒年額消耗彈藥數ノ件	三七八
拳銃射撃ノタメ射場ニ臨監スル准士官以上ニ消費セシムルヲ得ヘキ實包數ノ件	三七八
軍艦號砲竝ニ信號用空放交付方ノ件	三七九
霧中信號用空放ノ件	三七九
兵器簿中大砲用空放削除ノ件	三七九
彈藥包火藥及火工品類ハ製造ノ古キモノヨリ使用ノ件	三七九
大砲塗換ハ艦團員ニ於テ施行ノ件	三八〇
兵器實地使用ノ結果報告ノ件	三八〇
彈藥火工品類及其注意箋ノ取扱方ニ付注意ノ件	三八二
三十二捩實彈射撃施行ノ節伺出ノ件	三八二
入渠中禁止ノ事項拔萃	三八二
速射砲用電氣火管取扱ニ關スル件	三八三
砲煩照準器取扱上注意ノ件	三八三
砲甲板ニ實用彈ヲ備フルニ及ハサル件	三八四
十二尹安砲及八尹以下速射砲操練用彈丸裝藥等ノ件	三八五

五

艦艇火藥庫空氣交換ノ件	三八五
彈藥庫隣接ノ隔壁ニ直接灰燼ヲ堆積スヘカラサル件	三八六
八尹砲以上減裝藥ノ件	三八六
露式十二尹砲名指定ノ件	三八七
艦船ニ於テ同一兵器ノ備品ヲ消耗品ニ組替充用シ得サル件拔萃	三八七
火藥庫給排氣管銅網ニ關シ注意ノ件	三八七
砲煩保存ニ關スル件	三八八
兵備品會計規程書式中舊式用紙混用シ得ル件	三八九
縮射彈射撃ニ關スル件	三八九
平均單價算出方ノ件	三九〇
演習用トシテ供用ノ彈藥類殘餘還納ノ件	三九一
一部消耗ニ係ル彈藥類引換還納ノ際取扱ニ關スル件	三九一
縮射彈藥包打殼藥莢ハ小銃彈藥打殼藥莢ト混同スヘカラサル件	三九二
艦營需品ハ倉庫所在地ニ於テ搭載スヘキ件	三九三
戰時中艦營需品特別取扱ノ件	三九三

出征艦隊部隊艦營需品備品消耗手續ノ件	三九四
艦營需品請求等ニ關スル件	三九四
艦營需品取扱方ニ關スル件	三九五
備品受拂現況報告記載方ノ件	三九九
内外砲對航射擊規則拔萃	三九九
火藥庫溫度報告ノ件	四〇〇
武器手入レ拔萃	四〇〇
大砲手入レ拔萃	四〇一
艦内點檢拔萃	四〇一
倉庫點檢拔萃	四〇一
砲具點檢拔萃	四〇二
大津射的場使用規則拔萃	四〇二
不入斗陸軍射的場借用並ニ同手續ニ關スル件	四〇三
明治村辻堂ニ於テ射擊ノ際方向注意ノ件	四〇三
日字村射的場使用概則拔萃	四〇三

長崎縣西彼杵郡淵村海軍射的場規則拔萃	四〇四
舞鶴射的場使用概則拔萃	四〇四
上海居留地射的場ヲ借用シ得ル件	四〇五
掌砲科用諸帳簿一覽表	四〇五
各種報告書類進達期一覽表	四〇六
彈藥火工品類價格表	四〇八
海軍度量衡法及其ノ換算率	四一三
英佛度量衡表日英佛度量衡比較表	四一四
寒暖計比較表	四二九
海軍兵備品會計規程中改正ノ件	四二九
兵備品會計規程書式中從來使用ノ用紙混用シ得ル件	四二九

(終)

凡例

八

本書ハ砲術長主管兵備品ノ出納受拂取扱ニ關シ掌砲長執務ノ要領及關係令達其他參考トスヘキ例規等ヲ輯録シ以テ他日當事者タルヘキ高等科練習生ノ教科用トシ且ツ一般掌砲兵ノ參考ニ資セントス但シ内令ニ關スルモノハ一切之ヲ省ク故ニ軍機兵器ニ屬スル事項艦砲射擊ニ要スル諸般ノ事務海軍演習規則、豫備艦艇規則等ニ基キ掌砲長ノ知悉スヘキ件其他一般ニ内令ヲ以テ規定セラルヘキ要件ハ内令提要ニ依リ熟知スルヲ要ス

令達例規等ハ時々改廢セラルルコトアルモノナルヲ以テ掌砲長ハ不斷之ニ注意シ執務上遺漏ナカラシムコトヲ期スルヲ要ス之カ爲メ常ニ參照スヘキ書類大要左ノ如シ

一 達號綴

一 官房號綴

一 艦本綴

一 所屬長官及所管鎮守府令達等

一 會計官吏ヨリ發スル照會書類等

一 其他關係書類

各種規程規則等ノ諸表類中艦團其他各部ノ砲術長主管ニ於テ直接必要ナラサルモノハ之ヲ省キタルモノアリ

軍艦職員勤務令

拔萃 (三十一年一月十四日達第二號)

艦長

(掌砲科ニ關スル緊要ノ部拔萃)

第九十一條 艦長ハ艦内ニ於テ裸火ヲ使用セシムヘカラス又彈藥庫ハ勿論其他諸艙庫ニ點燈スルニハ摺附木ヲ嚴禁シ必ス安全ナル提燈ヲ以テセシムルコトニ注意スヘシ

第一百四條 艦長ハ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫竝ニ此等各庫ノ漲水弁ノ鍵ヲ保管シ其ノ他艦内ノ公鑰ハ副長若ハ各主管者ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

第一百五條 艦長ハ已ノ許可ナクシテ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫竝ニ其漲水弁ヲ開カシムヘカラス而シテ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫ヲ開クトキハ之ヲ當直將校ニ通告シ適當ノ警戒ヲ爲サシムヘシ

第一百五條ノ二 艦長ハ彈藥庫給排氣弁ハ雨天、夜間及必要ノトキハ之ヲ閉鎖シ其他ハ開放セシメ置クヲ例トスヘシ

第一百七條 艦長ハ非常ノ場合ニアラサレハ天候異狀ノ時若ハ夜陰ヲ冒シ彈藥水雷等ヲ搭載シ若ハ揚陸セシムヘカラス而シテ火藥綿火藥ヲ取扱フトキハ其ノ間白晝ナレハ赤旗夜間

ナレハ赤燈ヲ其橋頭ニ掲揚セシムヘシ運搬船舟ニ於テ亦同シ

第一百十條 艦長ハ已ノ許可ナクシテ危險可燃物ヲ艦内ニ搭載セシムヘカラス總テ危險物ハ已ノ示定セル場所ノ外猥リニ之ヲ置カシメサルコトニ注意スヘシ但シ通常此等危險物ヲ取扱フニハ白晝上甲板若ハ砲甲板ニ於テシ艙庫下甲板等ニ於テセサルヲ例トスヘシ

第一百一十條 艦長ハ危險可燃物貯藏所内ニハ燈火ヲ用ヒサルヲ通則トス然レトモ已ムヲ得サルトキハ安全燈ヲ用ヒシムヘシ

砲術長

第七十三條 砲術長ハ左ニ列記スル兵器物品ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔有効ニ保チ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ汽力水力若ハ電氣力ヲ用フル砲ノ俯仰、砲架砲塔ノ旋回裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

砲煩及砲架

携帶武器

大小彈藥

大砲方位盤

距離測定器

砲具及屬具

砲煩用試驗器具

前項ニ關シテハ砲術長ハ各兵器ヲ指揮スル將校ト交渉スヘシ又電氣ヲ應用セル砲煩用器具ハ水雷長ノ主管ニ屬シ又兵器及附屬裝置中、機械裝置ノ部ノ整理ハ機關長ノ責任ニ屬スト雖砲術長ハ能ク其ノ現狀ニ注意シ水雷長及機關長ト交渉シテ常ニ之レヲシテ實用ニ支障ナカラシムルコトヲ務ムヘシ

第七十四條 砲術長ハ主管兵器ノ効力ヲ熟知シ種々ノ場合ニ於テ最大ナル効果ヲ奏セシムルコトニ就キ十分ナル研究ヲ爲スヘシ

第七十五條 砲術長ハ主管ノ需品ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第七十六條 砲術長ハ常ニ遲滯ナク己ノ主管ニ屬スル諸帳簿ヲ整理スヘシ

第七十七條 砲術長ハ時々揚彈藥裝置及運搬裝置ヲ檢シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ其ノ汽力水力若ハ電氣力ヲ用フル裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

第七十八條 砲術長ハ時々火藥ノ現況ヲ檢査シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ若シ變質等

ノ兆候ヲ認ムルトキハ速カニ之レヲ艦長ニ報告スヘシ

砲術長ハ常ニ空放藥及禮砲藥ヲ準備シ急遽ノ需用ニ應セシムヘシ

第七十九條 砲術長ハ砲銃ノ火藥庫及彈丸庫ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ晴朗ノ天氣ニハ時々送風ヲ爲シ又溫度ヲ過昇セシメサルコトニ注意シ且規定ノ時日毎ニ庫内ノ溫度及濕氣ヲ測定スヘシ

第八十條 砲術長ハ砲銃火藥庫及彈丸庫ノ注水管竝ニ排水管ヲ有効ニ保存スルコトニ注意シ其艦入渠スルトキハ機關長ノ立會ヲ得テ注水試験ヲ行フヘシ

第八十一條 砲術長ハ砲銃火藥庫及彈丸庫ヲ開クトキハ能ク之ヲ監督シ不慮ノ過失ヲ生セサルコトニ注意スヘシ

第八十二條 砲術長ハ己ノ主管ニ屬スル器具、需品貯積ノ現況ヲ熟知シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ且整頓セシムヘシ

第八十三條 砲術長ハ艦長ノ命アルトキハ戰闘中砲銃ノ使用ニ關スル號令ヲ掌ルヘシ

第八十四條 砲術長ハ戰闘後速カニ其ノ主管ニ係ル兵器彈藥及物品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ以テ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第八十五條 砲術長ハ砲術上ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第八十六條 砲術長ハ砲術ニ關スル部署ヲ熟知シ常ニ其ノ便否ヲ考査シ制定若ハ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第八十七條 砲術長ハ艦長、砲術長主管ノ兵器及倉庫ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第八十八條 砲術長ハ砲煩發射ノ後ハ能ク艙中ヲ檢查シ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第八十九條 砲術長ハ其ノ艦動搖傾斜甚キトキハ砲煩ノ繫止ニ關シ充分ノ注意ヲ爲スヘシ

第九十條 砲術長ハ主管ノ兵器ヲ新設修理改造スルトキハ常ニ其ノ工事ニ注意シ適當ナラサルコトヲ認ムルトキハ之レヲ艦長ニ報告スヘシ

第九十一條 砲術長ハ砲術ノ熟達練磨ヲ圖リ下士卒ノ教育ヲ分任シ掌砲長砲術教員以下砲術ニ關スル部署ニ於ケル諸員ノ職務ヲ監督シ其ノ行狀技能ヲ詳知シ又下士卒ノ黜陟進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス

第九十二條 砲術長ハ砲術ニ關スル操式及規定ノ嚴格適切ニ行ハルルヤ否ヤヲ監督シ若シ之ニ關シ改正ノ必要ヲ認ムルトキハ案ヲ具シテ艦長ニ呈出スヘシ

砲術長ハ砲術ニ關スル事ニ就キ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ提出スヘシ

第九十三條 砲術長ハ水雷長ヲ置カサル艦ニ在リテ艦長ノ命アルトキハ水雷長ノ職務ヲ執行スヘシ

- 第九十四條 砲術長其ノ職ヲ退クトキハ主管ニ屬スル兵器需品其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第九十五條 水雷母艦ノ砲術長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ主管兵備品ヲ敏活正確ニ配給スルコトヲ掌ルヘシ
- 第九十六條 水雷母艦ノ砲術長ハ適用シ得ル限り本章第七十三條乃至第九十四條ノ規程ニ依ルヘシ
- 第九十七條 豫備艦ノ砲術長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハルルコトニ注意スヘシ
- 第九十八條 豫備艦ノ砲術長ハ適用シ得ル限り本章第七十三條乃至第九十四條ノ規程ニ依ルヘシ

掌砲長

- 第一條 掌砲長ハ砲術長ノ命ヲ受ケ砲術長主管ノ兵備品ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ其取扱方法ノ制規ニ戻ラサルヤニ注意シ彈藥庫ヲ整頓シ砲術科諸倉庫ヲ管理シ又其ノ分擔ニ屬スル需品ヲ受給スヘシ
- 第二條 掌砲長ハ常ニ砲術長主管ノ兵器ノ現状ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速カニ之ヲ砲術長ニ申告スヘシ
- 第三條 掌砲長ハ彈藥庫ノ開閉ニハ必ス自ラ之ニ臨ミ又其開放中ハ掌砲長屬ノ補助ヲ得テ常ニ之ヲ監督シ制規ノ警戒法ノ勵行ヲ監督スヘシ
- 第四條 掌砲長ハ常ニ彈藥庫及燈室内ノ現状ヲ熟知シ常ニ濕沾危險等ノ患ナキコトヲ確認シ若シ其ノ故障ヲ發見スルトキハ速ニ砲術長ニ申告シ之ヲ豫防スヘシ
- 第五條 掌砲長ハ砲術長主管ノ兵器及需品ノ收受及返付ニ際シテハ其ノ物質並ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ
- 第六條 掌砲長ハ其ノ分掌ノ器具物品ヲ保管シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約シ之ニ關スル諸帳簿ハ每週砲術長ノ検査ヲ受クヘシ
- 第七條 掌砲長ハ砲術ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ砲術長ニ呈出スヘシ
- 第八條 掌砲長ハ砲術長ノ監督ヲ受ケ砲術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又砲術長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ
- 第九條 掌砲長ハ掌砲上等兵曹砲術教員掌砲長屬以下ノ分掌ノ職務ニ對シ之ヲ監督シ又其ノ行狀技術ヲ詳知スヘシ

第十條 掌砲長ハ艦長若ハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第十一條 掌砲長ハ救難浮標ヲ保護シ毎週其ノ故障ナク落下スルヤ否ヤヲ實驗シ又航海中夜間ハ火災、晝間ハ赤旗ヲ之ニ装着シ其ノ都度之ヲ當直將校ニ報告スヘシ

第十二條 掌砲長ハ航海中夜間ハ救助艇用具箱ヲ各救助艇ニ備ヘ之ヲ當直將校ニ報告スヘシ

第十三條 掌砲長ハ軍事點檢、砲具點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ分掌諸部ノ整頓ヲ砲術長ニ報告スヘシ

第十三條 掌砲長ハ航海中時々大砲ノ固縛、砲門ノ固締其ノ他砲術科ノ移動物品ノ固縛ヲ檢シ夜間ハ掌砲長屬ノ補助ヲ得テ時々其ノ現狀ヲ當直將校ニ報告スヘシ

第十五條 掌砲長ハ砲術科ニ屢スル豫備兵器及物品ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保護スヘシ

第十六條 掌砲長ハ戰闘ニ際シテハ專ラ彈藥ノ供給ヲ監督シ又砲術科諸要具ノ支出ヲ掌ルヘシ

第十七條 掌砲長ハ戰闘後砲術長主管ノ兵器需品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ砲術長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之カ修補ニ從事スヘシ

第十八條 掌砲長其職ヲ退グトキハ其ノ分擔需品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任掌砲長ニ引繼キ共ニ之ヲ砲術長ニ報告スヘシ

第十九條 水雷母艦ノ掌砲長ハ掌砲長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外砲術長ノ命ヲ承ケ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ彈藥及掌砲科ノ需品ヲ支給スル事務ヲ掌ルヘシ

第二十條 豫備艦ノ掌砲長ハ掌砲長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外砲術長ノ命ヲ承ケ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハルルコトニ注意スヘシ

上等兵曹

第五十八條 上等兵曹ハ其艦ニ裝載セル主砲若ハ砲塔ノ長トナルトキハ其ノ部署ノ長ノ命ヲ承ケ部下砲員ヲ指揮訓練シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知シ常ニ其ノ擔任ノ砲塔及砲並ニ之ニ附屬スル裝置ノ整備保存ニ注意シ實用ニ當リ聊モ遺憾ナカシムルコトヲ努ムヘシ

下士卒

第二條 下士卒戰闘部署ニ依リ大砲、水雷發射管、火藥庫、彈庫、汽機、汽罐其ノ他主要ナル部署ノ先任者ニ配置セラルルトキハ常ニ擔任ノ兵器、彈藥庫、汽機、汽罐等ノ整備保存

ニ注意シ實用ニ當リ聊カモ遺憾ナカラシムルコトヲ努メ分隊長ノ命ヲ承ケ部下部署員ヲ指揮訓練シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ

第十條 砲術教授ハ砲術長ノ命ヲ承ケ砲術ニ關スル下士卒ノ教授ヲ掌ルヘシ

第十二條 掌砲長屬ハ砲術長ノ命ヲ承ケ掌砲長ヲ補佐スヘシ

第十三條 掌砲長ナキカ若ハ掌砲長事故アルトキハ先任掌砲長屬ハ掌砲長ノ事務ヲ執行スヘシ

海軍兵備品會計規則

(二十三年三月二十七日勅令第六十四號)

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

一、兵器、彈藥、水雷及其附屬品

二、秘密圖書、測器海圖

三、艦營需品

四、被服、糧食

五、治療品

第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條 (三十六年五月勅令第四十七號ニテ本條削除)

第四條 物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計検査院ニ送付スル計算書中ノ兵器彈藥水雷及其附屬品並ニ秘密圖書測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閱官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ

第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

海軍兵備品會計規程

(二十六年三月十日達第二十一號)

一三

- 第一條 兵備品ノ保管出納ハ本規程ニ依ルヘシ
- 第二條 兵備品ヲ類別シテ備品、消耗品、材料品、貸與品ノ四種トス
消耗品ヲ分チテ二種トス日常用雜品其ノ他即時ニ消費スル物品ヲ第一種消耗品トシ其ノ
品目ハ各兵備品規程ノ定ムル所ニ依ル第一種以外ノ物品ヲ總テ第二種消耗品トス
- 第三條 兵備品ノ保管出納ニ關シ兵備品出納命令官兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏及
兵備品取扱主任ヲ置ク其ノ區分ハ別表ニ依ル
- 第四條 兵備品出納命令官ハ兵備品ニ關スル規程ニ依ルニ非スシテ出納ノ命令ヲ發スルコ
トヲ得ス
- 第五條 兵備品會計官吏ハ自己ノ現ニ保管スル兵備品及艦團其ノ他各部ニ供用貸出假出シ
タル兵備品ニ對シ總テ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第六條 分任兵備品會計官吏ハ現ニ保管スル兵備品ニ對シ保管出納ノ責ニ任スヘシ
- 第七條 兵備品取扱主任ハ其ノ取扱ニ係ル兵備品ニ對シ保管受拂ノ責ニ任スヘシ
- 第八條 兵備品取扱主任兵備品使用者若ハ預リ者ハ第十八條第十九條第二十六條ノ場合ニ

於テ其取扱使用又ハ預リタル物品ノ損失ニ對シ正當ノ理由ナキモノハ辨償ノ責ニ任スヘ
シ

- 第九條 艦團其ノ他各部ノ長ハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ兵備品保管出納
及受拂ヲ監督スヘシ
- 第十條 兵備品會計官吏艦團其他各部ニ第二種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ分任官渡トシ
分任兵備品會計官吏ニ供給シ第一種消耗品ヲ供給スルトキハ之ヲ消耗拂トシ備品ヲ供給
スルトキハ之ヲ供用トシ貸與品ヲ供給スルトキハ之ヲ貸出トシ材料品ヲ交付スルトキハ
之ヲ假出トシ兵備品取扱主任ニ供給若ハ交付ス
- 第十一條 兵備品會計官吏ハ出納及受拂ノ證據トナルヘキモノニ兵備品出納命令官ノ認印
ヲ受ケ其命令ト爲スヘシ但シ兵備品會計官吏兵備品出納命令官ト遠隔ノ地ニアルトキハ
豫メ出納ノ命令ヲ受ケ現品ノ出納及受拂ヲ了シタル後之ヲ報告スヘシ
- 第十二條 兵備品會計官吏兵備品ヲ受入ルルトキ購入、生産、寄贈、殘材殘屑物、復生品
等ニ在リテハ該票ニ依リ還納、保管轉換、組替、更訂等ニ在リテハ該票ニ依リ受入ノ證
憑ト爲スヘシ
- 第十三條 兵備品會計官吏代價不詳ノ兵備品ヲ受入ルルトキハ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ見

一三

積代價ヲ附スヘシ但シ還納ニ係ル消耗品ニシテ新品ナルトキハ其ノ際原簿ニ記載アル平均代價ヲ附スヘシ

兵備品會計官吏還納品、修理改造品、其ノ他ノ古品ニシテ代價更正ノ必要アリト認ムルトキハ兵備品出納命令官ノ指揮ヲ受ケ相當代價ヲ附スヘシ

第十四條 兵備品會計官吏兵備品ノ保管轉換ヲ受ケタル場合ニ於テ使用ノ目的カ従前ノ名稱、數量稱呼、代價ヲ襲用シ能ハサルモノアルトキハ其ノ際其目的ニ適合スル名稱、數量稱呼、代價ニ更正スヘシ同一兵備品中組替ヲ爲ス場合亦之ニ準ス

第十五條 兵備品會計官吏生産ノ爲メ材料品ヲ假出スルトキハ假出票ヲ作り工場主任若ハ製造人又ハ兵備品取扱主任ノ預リ證ヲ徴スヘシ但シ自己ノ管理スル工場ニ於テ製造スルモノハ預リ證ヲ徴セサルモ妨ケナシ

第十六條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ルルトキハ材料品假出票ヲ決算シ生産拂票ヲ作り拂出ヲ爲シ殘餘アルトキハ戻入票ヲ作り受入ルヘシ

第十七條 兵備品會計官吏生産品ヲ受入ルルトキハ材料品代價ト加工費用トヲ併算シタル金額ヲ以テ其ノ代價ト爲スヘシ但シ加工費用ヲ算出スル能ハサルモノニ在リテハ單ニ材料品代價ノミニ依ルヘシ

第十八條 兵備品會計官吏其ノ保管ニ係ル兵備品ニシテ出納上剩餘ヲ生シタルトキハ納票ヲ作り事由ヲ附シ又出納上若ハ貯藏中減耗ヲ生シタルトキハ缺損票ヲ作り事由ヲ附シ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ元受若ハ拂出ヲ爲スヘシ

第十九條 兵備品會計官吏將來使用ノ目的ナキ兵備品ヲ賣却、棄却燒却若ハ通常物品ニ保管轉換スルトキハ其ノ品名數量事由ヲ記シ棄却燒却ノ場合ニ在リテハ各兵備品規程ニ定ムル所ノ證明書類ヲ添へ出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ天災其ノ他ノ事故ニ因リ兵備品ノ亡失毀損、腐敗、損廢アリタルトキ亦同シ

第二十條 兵備品會計官吏兵備品ヲ拂出ストキ贈與、賣却拂ニ在リテハ領收證書、分任官渡、保管轉換、消耗拂ニアリテハ領收票、生産、組替、更訂、缺損拂ニ在リテハ該票、亡失、毀損、腐敗、損廢、棄却、燒却拂ニ在リテハ離權票ヲ以テ其ノ證憑ト爲スヘシ

第二十一條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ヲ請求送付還納領收スルトキハ各其ノ證憑ヲ發スヘシ

第二十二條 繼團其ノ他各部ニ於テ兵備品ヲ直接購買シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ請求票、領收票、若ハ預リ證ヲ作り之ニ賣上人ノ納票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品會計官吏所在地隔絶ノ爲メ他ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ請求シ其ノ請求ヲ受ケタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任之ヲ供給シタルトキハ其ノ請求票、領收票ヲ添付シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ還納ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 兵備品取扱主任材料品ヲ以テ新ニ兵備品ヲ製造シタルトキハ納票、生産拂票、請求票、領收票ヲ作り材料品ノ交付ヲ受ケタル兵備品會計官吏ニ送付シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十二條第二十條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準スヘシ

第二十六條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル兵備品ニシテ第十八條第十九條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準シ之カ處分ヲ爲スヘシ但シ所屬出納命令官ト遠隔ノ地ニ在ルカ又ハ至急處分ヲ要シ其ノ指揮ヲ受クル邊ナキトキニ限り所轄長ノ證明ヲ得テ之カ處分ヲ爲シ品名、數量、事由ヲ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告スヘシ

第二十七條 前條ノ場合ニ於テ兵備品取扱主任ハ其證憑書類及關係書類ヲ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ分任兵備品會計官吏ハ所屬兵備品會計官吏ヨリ該物品價格ノ通知ヲ受ケ其證憑書類ニ記入スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸票ヲ作ルトキハ備品、消耗品、貸與品、材料品各別ニ調製スヘシ

第二十九條 兵備品會計官吏他所屬ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ兵備品ヲ供給シタルトキハ其ノ領收票ニ代價ヲ記入シ紙端ニ保管轉換ノ旨ヲ記シ署名捺印シ所屬兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ但シ第一種消耗品ハ此ノ限リニアラス

第三十條 兵備品會計官吏他所屬分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ヨリ兵備品ノ還納ヲ受ケタルトキハ其還納票ノ紙端ニ請求ノ旨ヲ記シ署名捺印シ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ保管轉換ヲ受クヘシ

兵備品會計官吏第二十三條ニ依リ兵備品ノ還納ヲ受ケタルトキ請求ヲ爲シタル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任カ他兵備品會計官吏所屬ナルトキハ前條ニ依リ所屬兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ

前條但書ノ規程ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十一條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ノ拂出ヲ爲シ又ハ各部各人ノ

使用ニ供スルトキハ各兵備品規程ニ於テ定ムル所ノ簿冊ニ受領者ノ印ヲ徴シ其ノ證憑ト爲スヘシ

第三十二條 兵備品出納命令官第十九條第二十六條亡失毀損、腐敗、損廢ノ場合ニ在テハ證憑書類及物品處分案ヲ附シ經理部長(東京ニ在テハ經理局長)ノ調査ヲ受クヘシ

第三十三條 兵備品出納命令官第十八條第十九條第二十六條ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏、兵備品取扱主任兵備品使用者若ハ預リ者ニ於テ辨償ノ責アリト認定シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ海軍大臣ニ申報スヘシ

第三十四條 兵備品會計官吏ハ原簿、内譯簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納及受拂ヲ登記スヘシ分任兵備品會計官吏ハ原簿ヲ備ヘ兵備品ノ出納ヲ登記スヘシ

兵備品取扱主任ハ受拂簿ヲ備ヘ兵備品ノ受拂ヲ登記スヘシ
第三十五條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ハ物品會計規則及會計検査院ニ於テ定ムル所ノ物品出納證明規程ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後三箇月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品受拂報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後一箇月以内ニ所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ二箇月以内ニ之ヲ下検査官吏ニ出スヘシ

兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏物品出納證明上證憑書トシテ會計検査院ニ提出スヘキモノノ内物品出納證明規程第五條第一號ノ證憑書類ハ同號但書ニ基キ所轄長ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

第三十六條 兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ヲ爲シタルトキ又ハ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書若ハ報告書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テ他ノ官吏ニ命シ計算書若ハ報告書ヲ調製セシムルトキハ交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ兵備品會計官吏ニ在リテハ三箇月以内ニ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ一箇月以内ニ前條ニ準シ計算書若ハ報告書ヲ出スヘシ

兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏交替ノトキハ各別ニ計算書若ハ報告書ヲ調製セス後任官吏一併ニ計算書若ハ報告書ヲ調製スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ末尾ニ各官吏執行ノ管理期ヲ記載シ後任官吏署名捺印スヘシ代理官ヲ命セラレタルトキ亦同シ

第三十七條 兵器彈藥水雷及其附屬品又ハ秘密圖書測器海圖ヲ保管スル兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ハ海軍兵備品會計規則第四條ニ依リ兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品出納計算書ヲ調製シ出納命令官ノ認定セル亡失、毀損、腐敗、損廢、減耗、棄却、燒却、賣却、事由書及檢閱官ノ證明書ヲ添ヘ分任兵備品會計官吏ニ在リテハ兵備品受拂

艦營需品ノ 内教育圖書	旅順工作部長 教育本部長 測器庫主管 旅順工作部長	*教育本部々員 *測器庫書記 *旅順工作部々員	旅順工作部主計長	隊 敷設 (分隊長一人) (機關長一人)
被服、糧食	衣糧科長 旅順經理部長	*衣糧科員 *旅順經理部々員	主計長	隊 敷設 (分隊長一人) (機關長一人)
治療品	療品庫主管 先任藥劑官(旅順病院)	主計長	主計長	隊 敷設 (分隊長一人) (機關長一人)
病院長	軍醫官 病院先任藥劑官 望樓長	主計長	主計長	隊 敷設 (分隊長一人) (機關長一人)

備考

本表中ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ相當スル職員ヲ置カサル艦團其他各部ニ在リテハ所屬長部下判任官以上ニ之ヲ命シ其官職氏名ヲ所屬兵備品會計官吏ニ報告スヘシ

驅逐隊艇隊條例第十一條第一項ノ場合ニ於ケル驅逐隊ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ被服糧食ニ在リテハ驅逐隊附主計官治療品ニ在リテハ驅逐隊附軍醫官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得艦營需品教育圖書ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任中艇隊ニ於ケル艇長一人敷設隊ニ於ケル分隊長一人ハ各司令之ヲ命スヘシ

出納命令官ハ*印ヲ附シタル會計官吏ヲ命免シ其ノ氏名ヲ報告スヘシ
兵備品出納受拂帳簿諸證憑用紙書式

目録

第一號書式	原簿書式
第二號書式	原簿書式
第三號書式	原簿書式
第四號書式	内譯簿書式
第五號書式	受拂簿書式
第六號書式	保管轉換、請求、還納、領收、送付其他證票書式
第七號書式	生産拂、組替、更訂票書式
第八號書式	納票書式
第九號書式	假出、戻入票書式
第十號書式	離權、缺損票書式

第十一號書式

(四十年三月達第十二
號ニテ本書式删除ス)

第十二號書式

出納計算書書式

第十三號書式

受拂報告書書式

第十四號書式

受拂報告書書式(兵器彈藥水雷及其附屬
品、秘密圖書、測器海圖)

第十五號書式

證明書書式

第十六號書式

事由書書式

第十七號書式

保證書書式

備考

- 一、兵備品會計官吏ニ於テ設備スヘキ原簿ハ第一號書式ニ内譯簿ハ第四號書式ニ依リ備品消耗品、材料品、貸與品ニ區分シ各別ニ帳簿ヲ設クヘシ但シ便宜一帳簿内ニテ口別ヲナシ整理スルコトヲ得
被服物品ハ更ニ新古品各別ニ帳簿ヲ設ク又經營需品中備品ノ原簿平均單價及在庫欄ハ新古品ニ區分スヘシ
消耗品材料品ハ内譯簿ヲ置カス
兵備品ニシテ修理改造其ノ他ノ事故ニ因リ現品在庫セサルモノアルトキハ原簿

殘ノ區ニ雜件ノ一欄ヲ設ケ其ノ數量ヲ登記スヘシ但シ現品庫外ニ在ル日數長カラサルモノハ登記ヲ省略スルコトヲ得

- 二、分任兵備品會計官吏ニ於テ設備スヘキ兵器、彈藥、水雷及其附屬品ノ原簿ハ第二號其ノ他ノ原簿ハ第三號書式ニ依ル經營需品ノ消耗高ハ毎月末日ニ糧食品ノ消耗高ハ一週日(月末ノ週ニ在リテハ末日)毎ニ其ノ合計ヲ記入スヘシ但シ整理上ノ都合ニ依リ其都度記入スルモ妨ナシ

- 三、兵備品取扱主任ニ於テ設備スヘキ受拂簿ハ第五號書式ニ依リ第一種消耗品ト他ノ兵備品ト各別ニ帳簿ヲ設クヘシ但シ第一種消耗品中治療品ノ消耗高ハ毎月末日ニ其ノ合計ヲ記入シ其ノ他第一種消耗品ノ消耗高記入方ハ第二ニ同シ又備品貸與品ノ帳簿ニ在リテハ年度締切ヲ爲ササルモノトス

- 四、兵備品ノ出納及受拂ニ要スル證憑ハ第六號乃至第十號書式ニ依ル

兵備品會計官吏ト分任兵備品會計官吏トノ間ニ要スル證憑ニハ兵器、彈藥、水雷及其ノ附屬品、秘密圖書、測器海圖ヲ除ク外代價記入ヲ要セス

經營需品ノ諸證憑ハ經營需品類別ニ依リ區別シ送付票ニ代價ヲ記入スヘシ

- 五、(四十年三月達第十
二號ニテ本項删除)

第三號(1)

明治(何)年度

(何 品)

原 簿

(某 艦 團 部 隊)

第五號(2)

品 名

(單位稱呼)

年月日

摘

要

體
積

受

拂

殘

第十三號(3)

明治何年度何兵備品受拂證明候也

分任兵備品會計官吏 職官氏名^印

本受拂報告書ト物品出納簿トノ符合及現在品ノ正確ナル
コトハ本官之ヲ保證ス

明治 年 月 日

何廳長官氏名^印

會計検査院長宛

(權 離) (々何) (式舊)
票 (損 缺)

第十號 (用紙美濃半葉)

品名	數量	單價	代價	價記	第
					號
					(某地)
					(某某)
					艦團
					部廳
					事

(但何々) 離權、
缺損ノ事由
(前書ノ物品
候也)

(兵備品會計官吏
職官氏名^印)
(分任兵備品會計
官吏職官氏名^印)
(兵備品取扱主任
職官氏名^印)

備考	現在之部		拂之部		之部		摘要
	在	庫	計	何々	損失	消耗	
ルトキハ摘要欄内其ノ品目ニ「△」ノ記號ヲ附スヘシ 物品會計規則第十條ノニ依リ精査ヲ受ケタルモノナ							

明治(何)年度

何兵備品受拂報告書

證憑書 何冊

何々 同

應 名

- 一、受拂報告書ヲ授受スル者ハ其ノ年月ヲ表紙ニ記載スヘシ
- 一、會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ受拂報告書表題何年度ノ次ニ其ノ取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
- 一、受拂報告書ノ用紙ハ摺沙引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ總代ヲ存スヘシ
- 一、受拂報告書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

第十五號 (用紙美濃十三行罫)

某品出納證明書

某廳兵備品會計官吏(分任兵備品會計官吏)職官氏名保管ノ某品明治何年度間ノ出納ヲ檢覈候處受拂代價別紙ノ通リニ有之其數量ノ精確ナルコトハ本官保證候也

明治年月日 檢閱官職官氏名(印) 會計検査院長宛

(別紙) 明治何年度某品受拂代價
一金 前年度ヨリ越高
一金 本年度受入高
計金 本年度仕拂高
差引 本年度末現在高
金

第十六號 (用紙美濃十三行罫)

亡失、毀損、腐敗損廢、減耗、棄却、燒却、賣却事由書

一金 內譯 亡失品合計
金 但シ亡失ノ事由 何々類
金 但シ同前 何々類
一金 內譯 棄却品合計
金 但シ棄却ノ事由 何々類
金 但シ同前 何々類
合計金 何々類
右ノ通り相違無之候也
明治年月日 (兵備品會計官吏氏名(印))
(分任兵備品會計官吏氏名(印))
會計検査院長宛 (出納命令官氏名(印))
右證明候也 (所轄長 氏名(印))

第十七號 (用紙美濃十三行罫)

保證書

某廳(兵備品會計官吏(分任兵備品會計官吏)職官氏名提出(明治何年度)(何品出納計算書)ニ掲記アル出納ハ總テ命令ニ適合シ其ノ仕拂ノ部中消耗、(生産)、(保管轉換)ニ係ルモノハ總テ領收證書ニ符合セルコトハ本官之ヲ保證ス

明治 年 月 日

何廳長官 氏 名(印)

會計検査院長 爵氏名宛

兵器經理規程 (三十七年三月四日達第五十二號)

五〇

第一條 兵器トハ砲、銃、水雷、彈藥、電氣諸裝置、軍樂器及其附屬品ヲ謂ヒ之ヲ砲銃、水雷ノ二部ニ分ツ其名稱及細目ハ兵器簿ニ依ル

第二條 兵器ヲ備品及消耗品ニ區分ス其ノ品目ハ別表第一號ニ依ル

第三條 兵器ノ主管別ハ別表第二號ニ依ル

第四條 兵器ハ工廠及造兵廠ニ貯藏シ相互保管轉換ノ必要アルトキハ海軍艦政本部ヲシテ通牒セシム

第五條 軍樂器ハ横須賀海軍工廠ニ於テ之ヲ供給ス

別表第三號ニ掲グル附屬品ハ其ノ他ノ工廠ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

ハ横須賀海軍工廠ニ保管轉換ノ手續ヲナスヘシ

第六條 演習用彈藥及爆發物ノ類ニシテ貯藏缺乏ノ場合ニ限り實用彈藥及爆發物ノ類ヨリ組替充用スルコトヲ得

第七條 工廠及造兵廠ニ於テ製造若ハ購買シタル兵器ハ該廠ニ於テ保管シ其ノ他ノ兵器ハ海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ之ヲ保管スヘシ

第八條 艦團其ノ他各部(其ノ他各部トハ部、隊、校、所等ヲ謂フ以下同シ)ニ要スル兵器ノ定數ハ兵器簿ニ依ル但シ兵器簿制定前ハ海軍艦政本部長ノ豫定シタル豫定兵器簿ニ依ル

新ニ供給ヲ要スル兵器ニシテ定數ナキモノハ海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ供給スルコトヲ得

第九條 豫定兵器簿ニ依リ供給ヲ受ケタル艦團其ノ他各部ニ在リテハ約一箇年間實際ノ適否ヲ精査シタル後該長ハ之レニ意見ヲ附シ在籍又ハ所管鎮守府司令長官(艦隊要港部ニ在テハ所屬長官ヲ經由ス)ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ最寄鎮守府司令長官ニ提出スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ豫定兵器簿ヲ調査シ意見ヲ附シ海軍艦政本部長ニ送付スヘシ艦政本部長ハ之ヲ審査シ兵器簿制定ノ手續ヲ爲スヘシ但シ兵器簿制定以前ニ在リテハ工廠長ハ艦政本部長ノ承認ヲ得テ豫定定數ヲ増減スルコトヲ得兵器ノ換裝ヲ爲シタル場合亦同シ

第十條 兵器ハ製造及檢査用見本ノ外貸出スコトヲ得ス但シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニアラス

艦艇ニ兵裝或ハ換裝ノ爲メ兵器ヲ支出スルトキ其ノ艦艇ニ分任兵備品會計官吏若ハ兵備

品取扱主任在ラサル場合ニハ該工事主任官ニ之ヲ貸與スルコトヲ得

第十一條 兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル部團ニ於テハ兵備品會計官吏ニ兵器ノ繰上渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏繰上渡ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量ヲ所屬工廠長ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十二條 艦船外國航海中若ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在ル艦船部團ハ消耗品ヲ相互請求スルコトヲ得

第十三條 艦團其他各部ニ於テ魚形水雷ヲ失踪セシメタルトキハ役務行動上止ムヲ得サル場合ニ限り其ノ發見迄代品ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵備品會計官吏ハ所屬工廠長ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十四條 艦團其ノ他各部ニ於テ定數外ノ兵器ヲ要スルカ若ハ定數變更ノ必要アルトキハ在籍又ハ所管鎮守府ノ工廠長(艦隊、要港部ニアリテハ所屬長官ヲ經由ス)ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在テハ造兵廠長ニ其ノ他ハ最寄鎮守府ノ工廠長ニ申請スヘシ工廠長又ハ造兵廠長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シテ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

艦艇在籍鎮守府ニ遠隔ノ地ニ在リ役務其他ノ都合ニヨリ在籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ前項ノ申請ヲナスノ暇ナキトキハ最寄海軍工廠長ニ申請スルコトヲ得此場合ニアリテ

ハ其旨在籍鎮守府司令長官(艦隊、要港部ニアリテハ所屬長官ヲ經由ス)ニ報告スヘシ

前諸項ノ場合ニ於テ据付又ハ取外ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ兵器造修、試験検査規則ヲ準用ス

第十五條 鎮守府司令長官ハ戰時及事變ニ際シ海軍大臣ノ認許ヲ經ル遑ナキトキハ定數外ノ兵器ヲ供給スルコトヲ得此場合ニ於テハ其ノ品名數量事由ヲ海軍大臣ニ届ケ出ツヘシ

第十六條 鎮守府司令長官ハ制規ニ依リタル兵器試験ノ爲メ兵器ヲ供給セシムルコトヲ得造兵廠ニ於テ兵器試験ニ要スル兵器ノ支出ハ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ
公試發射若ハ兵器試験ニ要スル兵器ハ該委員長(委員長ナキトキハ先任委員ニ供給スルモノトス)ニ供給スルモノトス

第十七條 艦團其ノ他各部ニ要スル兵器ハ在籍又ハ所管鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府所管ニアラサル各部ニ要スル兵器ハ東京ニ在リテハ造兵廠其ノ他ハ最寄鎮守府ノ兵備品會計官吏之ヲ供給ス

鎮守府兵備品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ兵器ヲ供給スルコトヲ得
分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵器ノ還納ヲ要スルトキハ之ヲ所屬兵備品會計官吏ニ還納スヘシ但シ艦船在籍又ハ所管鎮守府管區外ニ在ルトキハ最寄鎮守府兵備品會計

計官吏ニ還納スルコトヲ得

第十八條 艦團其ノ他各部ニ於テ使用上生シタル彈藥其ノ他ノ格納筐、藥莢、插彈子、火管體、無線電信機用假製現波管、同電鑰用觸着片、魚形水雷衝突頭部、安全溶解栓ノ類ハ兵備品會計官吏ニ還納スヘシ

第十九條 兵備品會計官吏ハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ヨリ還納シタル兵器ヲ良品、損品、廢品ニ分チ良品ハ直チニ庫納シ損品ハ兵器造修試驗検査規則ニ依リ修理ヲ加ヘ其ノ修理ヲ加フルモ得失相償ハルモノ及廢品ハ第二十條第二十一條ニヨリ處分スルモノトス

亡失ノ兵器ヲ拾得者ヨリ受領シタル工廠若ハ造兵廠ハ評價ヲ附シ受入ヲナシ其品名及評價額ヲ海軍艦政本部ニ報告スヘシ

第二十條 兵備品會計官吏其ノ保管兵器ノ内用品廢品ヲ生シタルトキハ其ノ品名數量事由ヲ詳記シ出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ工廠長又ハ造兵廠長ニ報告シ工廠長又ハ造兵廠長ハ検査官ヲシテ検査セシメ之ヲ承認シタルモノノ内造兵材料ニ使用ノ目的アルモノハ通常物品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲シ其ノ使用ノ目的ナキモノハ所要ノ通常物品會計官吏ニ保管轉換スルカ又ハ賣却、棄却、燒却ノ手續ヲ爲スヘシ

兵備品會計官吏ハ前項ニヨリ處分スル兵器ノ内將來ノ參考トナルヘキモノハ出納命令官ニ報告シ工廠ニ在リテハ出納命令官工廠長ノ承認ヲ得テ造兵廠ニ在リテハ出納命令官直チニ之ヲ參考兵器トシテ保管セシムルコトヲ得

第二十一條 工廠長又ハ造兵廠長ハ不用品ノ廢品ト決シタル兵器ノ内砲、砲架、彈丸、銃、魚形水雷、發射機、空氣壓搾唧筒、氣蓄器、裝氣柱、探海電燈、發電機、火藥、敷設水雷罐、裝設電纜、潜水艇用二次電池及水壓機ハ不用品トナリタル模様及原因ヲ調査シ其理由ヲ詳記シ改造ノ上使用ノ見込アルモノハ意見ヲ附シ入費概算書ヲ添附シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ艦政本部長ハ之ヲ調査シ其處分ヲ命スヘシ但シ砲、砲架、水雷、發射機、探海電燈、發電機、彈丸、火藥ニ在リテハ海軍艦政本部長ハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

廢品ニ至ラサルモ樞要ノ部分ヲ毀損シタル兵器アルトキハ工廠長又ハ造兵廠長ハ前項ニ依リ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二十二條 兵備品會計官吏天災其ノ他ノ事故ニ依リ貯藏ノ兵器ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ品名數量代價及事由ヲ詳記シ出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ保管ニ屬スル兵器ヲ亡失毀損シタルトキ若ハ必要ニ依リ棄却シタルトキハ其ノ品名數量及事由ヲ詳記シ所轄長ニ報告シ所轄長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ移シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告シ出納命令官ハ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ但シ永年使用ノ結果其ノ性能ヲ失シ用途ニ適セサルニ至リシ重要ナラサル兵器ノ引換ヲ要スルモノニアリテハ毀損報告ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條 兵備品會計吏ハ其ノ貯藏保管スル兵器ノ數量不足セントスルトキハ順序ヲ經テ其補充ヲ海軍總政本部ニ請求スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏新製若ハ購買兵器ヲ受入ルトキハ工廠ニ在リテハ造兵部ヨリノ成品送付票、造兵廠ニ在リテハ製造部ヨリノ成品送付票、海軍總政本部ノ通牒ニ依リ受入ルモノハ該通牒ヲ以テ納票ニ代用シ受入ノ證據ト爲スコトヲ得

第二十六條 兵備品會計官吏兵器ヲ受入ルトキ其ノ合計代價ノミ分明ニシテ各別ニ之カ代價ノ算出ヲ要スルモノハ兵備品會計官吏其ノ評價ヲ爲シ出納命令官ノ承認ヲ受クヘシ

第二十七條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ第一種消耗品ヲ供給シタルトキハ該艦

船在籍鎮守府ノ兵備品會計官吏ニ其品名數量ヲ通牒スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ヨリ第一種消耗品ノ還納ヲ受ケタルトキハ該艦船在籍鎮守府ノ兵備品會計官吏ニ其ノ品名數量ヲ通牒スヘシ

第二十九條 兵備品會計官吏貯藏兵器中一部分廢品トナリタルモノヲ交換スルカ或ハ品位品種ノ組替變換ヲナス場合ニ於テハ海軍兵備品會計規程第七號及第八號票ヲ用ヒ記帳整理ノ手續ヲナスヘシ但シ品種變換ノ場合ニ在リテ加工費用ノ算出セラルヘキモノハ併算スヘシ

第三十條 兵備品會計官吏ハ艦船其ノ本籍ヲ轉シタルトキハ該艦船ニ供給シタル消耗品ノ數量ヲ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ通牒スヘシ

第三十一條 兵備品會計官吏ハ現品簿(書式第一號)ヲ調製シ彈藥、火工品及爆發物類ノ製造年月種目及其他必要ノ事項ヲ詳記シ現品ノ實況ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三十二條 兵備品會計官吏ハ海軍兵備品會計規程第十八條ニ依リ元受若ハ拂出ヲナシタルトキハ海軍艦船本部ニ報告スヘシ但シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ於テ元受若ハ拂出シヲ爲シタルモノアリタルトキ亦同シ

第三十三條 兵備品會計官吏ハ毎月五日限り前月分ノ兵器出納ヲ調査シ書式第二號乃至第

五號ニ依リ左ノ報告書ヲ調製シ海軍艦政本部ニ出スヘシ

一、交付及保管轉換兵器報告(造兵材料ニ保管轉換ノモノヲ除ク)

一、還納兵器處分報告

一、兵器組替更訂報告

一、在庫兵器處分報告

第三十四條 兵備品會計官吏ハ毎年三月三十一日在庫現數ト其ノ年度中ニ出納シタル兵器ノ出納總括表(書式第六號)ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ海軍艦政本部ニ出スヘシ

第三十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ毎月五日迄ニ前月分ノ消耗兵器消耗報告(書式第七號)ニ通ヲ作り所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ一通ヲ其月末日迄ニ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十六條 分任兵備品會計官吏ハ消耗品拂出簿(書式第八號)兵備品取扱主任ハ兵備品供用簿(書式第九號)及消耗品拂出簿ヲ設ケ消耗品ノ拂出ヲナストキハ監督者若ハ先任者ニ交付シ該簿ニ捺印セシメ備品ヲ各自ノ使用ニ供スルトキハ受領者ノ印ヲ徴スヘシ但シ監督者ニ一併ニ交付スルモ妨ケナシ

第三十七條 兵備品取扱主任砲熷射擊規則其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ取扱ニ係ル備品ヲ消耗

シタルトキハ備品消耗報告(書式第十號)正副二通ヲ作り兵備品會計官吏ニ出スヘシ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ副書ヲ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十八條 兵備品取扱主任兵器造修試驗檢査規則第三十六條ニ依リ其ノ取扱ニ係ル彈藥火工品類ノ試驗檢査ヲ要求シタルトキ其ノ消耗シタルモノニ對シテハ檢査官ヨリノ消耗通牒ヲ以テ拂出ノ證憑トナシ第三十五條及第三十七條ニ依リ報告スヘシ

附則

第三十九條 本規程ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

別表第一號

備品

砲銃之部

砲銃及其ノ附屬器具、實用彈藥及附屬要具、鍬兵器具、彈藥庫内器具、艦内器具、軍樂器

水雷之部

發射管、發射器及其ノ附屬器具、空氣壓搾唧筒及其ノ附屬器具、水雷及其ノ附屬器具、通信器及其ノ附屬器具、探海燈及其ノ附屬器具、發電機、電動機

及其ノ附屬器具、移動白熱電燈、白熱電燈用器具、試驗器具類、水雷諸要具、救難浮標用器具、實用火工品及爆發物、地板大、

第一種消耗品

砲銃ノ部

演習用彈藥類、測壓器用銅柱類、目塗劑ノ類、禮砲用空包、發火裝置隔緣環、常備用空包、夜中照準器用白熱電燈、同用綠硝子、

水雷ノ部

演習用爆發物及火工品類、紙板、白金線、兵器簿諸要具ノ部中ニ記載ノ消耗兵器、白熱電燈、覆硝子類、安全溶解片及線類、白熱電燈線、赤光燃料、救難浮標用火莖及料藥罐ノ類、演習用敷設水雷、夜中照準器用白熱電燈、同用綠硝子、無線電信用現波粉、同用電鑰用觸着片、同用硝子壺、壓搾唧筒革間座、水雷用革間座、注油機硝子類、無線電信用現波管、同用安全溶解片、同用開閉器用革紐、距離測定儀及單衛所視發弧器用白熱電燈、魚形水雷用衝突頭部(接合環ヲ除ク)安全溶解栓、發射管用護謨間座、同用革間座、同用織緯間座、壓搾唧筒用織緯間座、水雷用護謨間座、

第二種消耗品

砲銃ノ部

革製環座、軍樂器用鋼針、釦、發條、押金、硝子ホヤ、廢物彈丸、軍樂器用舌、

水雷ノ部

小裝鎧電纜、單心裝鎧電纜、探海電燈用電纜發電機及電動機用集電子、發射管用塞塞筒衛帶、壓搾唧筒用革製衛帶

別表第二號

主管別	品名
航海長	信號器及其ノ附屬器具等
砲術長	砲、銃、水壓駐退機、軍樂器、發砲電路及其ノ附屬器具等
水雷長	水雷、發射管、發射機、探海電燈、電氣通信器及其ノ附屬器具並ニ電機試驗器具等
機關長	空氣壓搾唧筒、發電機電動機水壓唧筒機、大砲水壓旋回機、電燈、機關ニ關スル電氣器具及其ノ附屬器具等
備考	試驗器具及消耗兵器ハ各主管相互流用スルコトヲ得

兵器造修試験検査規則 (三十七年七月二日達第百十號)

七〇

第一章 製造、修理、兵装

第一條 艦艇(軍艦驅逐艦及水雷艇ヲ云フ)ヲ製造セシメントスルトキハ海軍大臣海軍艦政本部長ニ命ジ其兵装ニ關スル大體ノ計畫ヲ爲サシム

第二條 艦艇ノ製造若ハ組立ヲ令達セラレタル鎮守府司令長官ハ所屬海軍工廠長ヲシテ前條ノ大體計畫ニ基キ兵装ニ關スル明細圖面及豫算書ヲ調製セシメ海軍大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第三條 外國製造所ニ於テ艦艇ノ兵装ヲナサシメントスルトキ若ハ兵器ヲ購買セントスルトキハ第一條ノ大體計畫ニ基キ海軍艦政本部長ヲシテ一切ノ處理ヲ爲サシム但シ内國私立製造所ニ於テ製造若ハ組立タル艦艇ノ兵装ハ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ例トス此ノ場合ニ在テハ第二條ヲ準用ス

第四條 艦艇ノ兵装竣工シタルトキハ海軍工廠長ハ左記ノ圖面ヲ作成シ艦艇長ニ交付スヘシ
大砲及砲架
水壓唧筒機
大砲旋回機

揚彈藥機

水壓管裝置

水雷發射管

空氣壓搾唧筒及氣蓄器

空氣管裝置

發電機及發動機

電線配置

第五條 供用兵器ノ増設、改造及修理ヲ要スルトキハ艦團其他各部ノ長ニ於テ其品名數量及詳細ノ事由ヲ具シ在籍又ハ所管鎮守府ノ海軍工廠長(鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦艇等ニ在テハ所屬長官ヲ經テ)ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在テハ海軍造兵廠長ニ其他ハ最寄鎮守府ノ海軍工廠長ニ請求スヘシ但シ役務ニ差支ナキ修理ニ限り所屬長官ヲ經スシテ直ニ海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其旨所屬長官ニ報告スヘシ

兵備品會計官吏貯藏兵器ノ修理改造ヲ要スルトキハ品名數量及事由ヲ詳記セル調書ヲ製シ出納命令官ノ認可ヲ受ケ海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ニ申請スヘシ

第六條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長前條第一項ノ請求ヲ受ケ之ヲ至當ト認メタルトキハ

七一

豫算定額内ニ於テ其緩急ヲ量リ修理ニ係ルモノハ海軍工廠ニ在リテハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ海軍造兵廠ニ在リテハ直ニ工事ニ着手シ増設又ハ改造ニ係ルモノハ意見書工
事方案(圖書ヲ要スルモノハ之ヲ添付シ)工事日子、重量増減及一廉毎ノ入費概算書ヲ添ヘ鎮守府司令長官若
ハ海軍艦政本部長ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ就役艦艇兵器ノ修理等ニシテ其
工事一週日以上ニ涉ルモノハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ
前條第二項ノ修理工事ハ豫算定額内ニ於テ其ノ緩急ヲ量リ着手スヘシ但シ改造ニ係ルモ
ノハ前項ノ手續ニ依リ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 艦艇本籍鎮守府ニ遠隔ノ地ニ於テ兵器ノ増設、改造修理ノ急施ヲ要シ役務其他ノ
都合ニ依リ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スルノ違ナキトキハ最寄海軍工廠長ニ
請求スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其旨本籍鎮守府司令長官(鎮守府司令長官ニ直屬セザル艦艇ハ所屬長官ヲ經テ)ニ報
告スヘシ

第八條 海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ兵器ノ据付及修理等ヲ他ノ海軍工廠長
又ハ海軍造兵廠長ニ依託スルコトヲ得依託ヲ受ケタル海軍工廠長又ハ海軍造兵廠長ノ据
付及修理等ニシテ未タ依託工廠ノ調査ヲ經サルモノナルトキハ精細之ヲ調査シ至當ト認
メタルモノハ工事方案竣工期限等ヲ定メ依託海軍工廠長ニ協議シ第六條ノ手續ヲ爲シ工

事ニ着手スヘシ前條ノ請求ヲ受ケタルトキ亦同シ

第八條ノ二 海軍工廠長海軍造兵廠長ハ工務ノ都合ニ依リ兵器ノ製造据付修理及材料ノ加
工ヲ内國私立製造所ニ請負ハシメ又ハ加工シタル材料ヲ内國私立製造所ヨリ購買スルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量金額及事由ヲ記載シ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 海軍工廠、海軍造兵廠及海軍下瀬火藥製造所ニ於テ製造スヘキ兵器ノ注文手續ハ
海軍艦政本部長種類數量金額事由等ヲ詳記セル通牒書ヲ調製シ海軍大臣ノ許可ヲ經テ海
軍工廠長、海軍造兵廠長及下瀬火藥製造所長ニ送付ス但シ海軍工廠ニ送付スルモノハ鎮
守府司令長官ヲ經由スルモノトス

海軍造兵廠ニ於テ購買スヘキ兵器ノ注文手續ハ前項ノ例ニ依ルヘシ
第十條 海軍工廠長、海軍造兵廠長若ハ下瀬火藥製造所長前條ノ通牒書ヲ受領シタルトキ
ハ其ノ入費概算及落成期限ヲ豫定シ工事又ハ購買ニ着手シ其ノ入費概算及落成期限ヲ海
軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十一條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長兵器ヲ製造若ハ改造スルニ當リ從來制式ノモノヲ
改良セント欲スルカ又ハ領收検査規格ニ變更ヲ要スルトキハ之カ理由及必要圖面ヲ具シ
海軍艦政本部長ノ承認ヲ與フル前豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ハ兵器ノ増設、改造並ニ重大ナル修理ニシテ前月中完成シタルモノヲ第六號書式ニ依リ鎮守府司令長官ヲ經テ翌月五日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二章 試驗検査

第十三條 兵器ノ試驗検査ヲ分テ左ノ三種トス

第一 領收試驗

第二 公試發射

第三 定期検査

第一 領收試驗

第十四條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠ニ於テ新ニ砲煩ヲ製造シタルトキハ陸上ニ於テ左ノ方法ニ依リ試射シ第一號表式ニ依リ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

領收試驗ニ於テ發射スヘキ彈數左ノ如シ但シ必要ニ應シ適宜増減スルコトヲ得

空放 一發 半裝藥 一發

常裝藥 四發 強裝藥 二發

半裝藥及常裝藥ハ規定ノ初速ヲ得ルヤ否ヤヲ檢シ強裝藥ハ十二斤以上ノ砲ニ在リテ八十

八噸乃至二十噸ノ壓力ヲ生セシメ以テ砲架及諸機部ノ耐力ヲ檢スルモノトス

五十七密米以下ノ砲ニ在リテハ強裝藥ノ壓力ハ常裝藥ノ壓力ヨリ三噸乃至五噸ヲ高ムルモノトス

第十五條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠ニ於テ新ニ魚形水雷ヲ製造シタルトキハ明治三十五年內令第十七號艦隊ニ供給スル保式魚形水雷發射試驗規則ニ準シテ試射シ其ノ成績ヲ海軍大臣艦政本部長ニ報告スヘシ

第十六條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠ニ於テ水雷發射管ヲ製造シタルトキハ左記ノ試射ヲ施シ、其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

固定水上發射管ハ艦船ニ裝備スヘキ同府角ト爲シ藥發及氣發ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ完備セル水雷ヲ各二回宛

旋回水上發射管ハ藥發若ハ氣發ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ二回但シ聯裝ノモノハ同時ニ一回發射スルヲ要ス

水中發射管ハ艦船ニ裝備スヘキ水面下ノ位置ト同一ニ据付ケ藥發ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ完備セル水雷ヲ二回

第十七條 内外國私立製造所ニ於テ砲煩、水雷若ハ發射管ヲ製造シタルトキモ亦前諸條ニ

準シ試験ヲ行ヒ當該監督官ハ其ノ成績ヲ海軍總政本部長ニ報告スヘシ

第二 公試發射

第十八條 艦艇新ニ兵裝ヲ爲スカ又ハ從來ニ著シキ改造修理ヲ加ヘタルトキハ之カ工事ヲ施シタル海軍工廠ノ屬スル鎮守府ニ於テ公試ヲ爲スヘシ

第十九條 鎮守府司令長官艦艇兵裝ノ公試ヲ要スルニ當リ其ノ麾下ニ於テ之ヲ執行シ能ハサルカ又ハ他ノ鎮守府ニ於テ執行スルヲ便宜ト認ムルトキハ他ノ鎮守府司令長官ニ其ノ執行ヲ依託スルコトヲ得若シ戰時事變等ニ際シ鎮守府ニ於テ公試ヲ爲スノ違アラサルトキハ鎮守府司令長官ハ艦隊司令長官ニ其ノ執行ヲ依託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ艦隊司令長官ハ麾下ノ職員ヲ以テ兵裝公試委員ヲ編制シ本則ニ準シ之ヲ執行スヘシ

第二十條 艦艇兵裝ノ公試ヲ分テ左ノ二種トス

一、砲煩

二、水雷

第二十一條 砲煩ノ公試ヲ更ニ左ノ二種ニ區別ス

一、砲煩裝備發射

二、砲煩命中發射

第二十二條 砲煩裝備發射ハ新ニ砲煩ヲ据ヘ付タル場合或ハ据付位置ノ改造變更等ノ工事

竣工シタル場合ニ於テ砲身砲架ノ船體ニ對スル適否及附屬機關ノ動作ヲ檢スルモノニシテ命中發射ハ裝備發射結了後專ラ砲煩照準器ノ適否命中ノ粗密ヲ檢スルモノトス

第二十三條 水雷ノ公試ハ水雷兵器ノ据付、改造若ハ修理竣工シタル場合ニ於テ其ノ動作ノ如何竝ニ發射管ニ在リテハ諸種ノ速力ヲ以テ發射ヲ檢スルモノトス

第二十四條 兵裝公試中艦艇ノ指揮ハ在役艦艇竝ニ豫備艦艇ニ在リテハ本艦艇長(本艦艇長ハ副長、副長ナキトキハ豫備艦艇部長)其ノ他ノ艦艇ニ在リテハ港務部長之ヲ掌ルヘシ

但シ豫備艦艇部長若ハ港務部長ハ場合ニ依リ部下將校ヲ指定シ本條艦艇ノ指揮ヲ掌ラシムル事ヲ得

第二十五條 海軍工廠長ハ公試發射ヲ爲スヘキ時期ニ達シタルトキハ執行期日ヲ豫定シ鎮守府司令長官ニ具申ス鎮守府司令長官ハ前條ノ指揮官、其ノ他必要ナル部下ノ職員及其ノ艦船乗員中ヨリ適宜選定シタル者ヲ以テ公試委員ヲ編制シ兵裝公試ヲ執行セシムヘシ

第二十六條 海軍工廠長ハ公試發射期日確定シタルトキハ海軍總政本部長ニ通知スヘシ但シ其ノ通知ハ艦政本部ヨリ公試實視員ヲ派遣スルニ充分ノ時日アルヲ要ス

第二十七條 砲煩裝備發射ハ左ノ方法ニヨリ施行スルモノトス

但シ時期ニ依リ發射彈數ヲ増減スルコトヲ得

側砲一門ニ付

減裝藥演習榴彈

一發

常裝藥演習榴彈

八尹以上ノ砲ニ在リテハ砂壇銀鋼榴彈

三發

旋回砲一門ニ付

減裝藥演習榴彈

一發

常裝藥演習榴彈

八尹以上ノ砲ニ在リテハ砂壇銀鋼榴彈

三發

機砲一門ニ付

諾典砲ニ在テハ四十發マキシム砲ニ在リテハ二百五十發

連發二回

八尹以上ノ艦首艦尾砲ニ在リテハ「キール」線ヨリ四十五度以上ニ於テ發砲スルヲ例トス

又聯裝砲ニ在リテハ本條發射彈數以內ニテ一回ノ一齊發射ヲ施行スヘシ

第二十八條 砲煩命中發射ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス

但シ標的ハ六「メートル」方形ノ幕のトス

同種砲ノ内一門ニ付

減裝藥演習榴彈

減裝藥トキモノハ常裝藥

五發

同種機砲ノ内一門ニ付

單發連發通シテ

五回トス

聯動照準裝置ヲ備フル砲ニ在リテハ各砲四發トス

實射ハ重砲ニ在リテハ千五百米突以內、輕砲ニ在リテハ五百米突以內トス

但シ射距離ハ隨時短縮スルコトヲ得

標的ニ十分ノ八以上の中シタルモノヲ良好トス

第二十九條 水雷發射ハ靜的ニ向テ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス

一、軍艦ニ於ケル水上發射管

靜止中

一回

自然通風全力五分ノ一

一回

自然通風全力五分ノ三

一回

自然通風全力

一回

發射管旋回式ナルトキハ以上ノ發射中二回ハ左右全旋回ノ位置ニ於テスルヲ要ス

二、驅逐艦及水雷艇ニ於ケル水上發射管

靜止中

一回

強壓通風全力五分ノ一

一回

強壓通風全力五分ノ三

一回

強壓通風全力五分ノ四

一回

發射管旋回式ナルトキハ以上ノ發射中二回ハ左右全旋回ノ位置ニ於テスルヲ要ス
三、水中發射管

靜止中 一回

速力十二節 一回

速力十四節 一回

速力十七節 一回

第三十條 兵裝公試中便宜ノ時機ヲ見計ヒ水壓唧筒機、大砲旋回機、發電機、各種發動機
壓搾唧筒等全力働作ヲ試驗シ兼テ附屬器具ノ完否ヲ檢スヘシ

第三十一條 鎮守府司令長官ハ兵裝公試終了シタルトキハ公試委員ヲシテ直ニ其ノ成績ノ
要點ヲ報告セシメ之レヲ海軍大臣ニ電報スヘシ

第三十二條 公試委員ハ其成績表ヲ砲煩部ニ在リテハ第二號甲乙表式、水雷部ニ在リテハ
第三號甲乙表式ニ依リ各四通(本籍鎮守府司令長官ニ提出スル場合ニハ三通)ヲ調製シ各自署名ノ上一週間以内ニ之

ヲ鎮守府司令長官ニ提出スヘシ鎮守府司令長官ハ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ艦艇本
籍鎮守府司令長官ニ移牒シ一通ヲ本艦艇長ニ交付スヘシ

第三十三條 外國ニ於テ兵裝シタル艦艇ハ本邦ニ回着ノ後六箇月以内ニ其ノ艦艇本籍ノ鎮

守府ニ於テ本則ニ規定シタル兵裝公試ヲ執行スヘシ

但シ外國ニ於テ領收ノ際施行セル試驗ヲ以テ一部公試ニ代フルコトヲ得

外國ニ於テ施行シタル兵裝試驗ノ成績ハ造兵監督官之ヲ海軍總政本部長ニ報告シ海軍總
政本部長ハ海軍大臣ニ進達シ尙其ノ寫ヲ艦艇本籍ノ鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第三 定期検査

第三十四條 艦團其ノ他各部ニ於テ砲煩ノ常裝藥發射彈數左記ノ定數ヲ超過シタルトキハ
其ノ長ハ速ニ海軍工廠長(海軍造兵廠ニ在リテハ同廠長)ニ臆中検査ヲ請求スヘシ海軍工廠長ハ鎮守府司令
長官ノ認可ヲ得テ検査ヲ行ヒ其ノ成績表(第四號甲)備考欄内ニ意見ヲ記入シ二通ヲ作成
シ一通ハ海軍總政本部長ニ提出シ一通ハ試驗要求元ニ交附スヘシ
但シ二分一減裝藥ヲ以テスルトキハ二發ヲ以テ常裝藥ノ一發ニ數フ

九尹以上 五十發

六尹以上 百五十發

十二斤(三尹)以上 四百發

二斤半以上 八百發

砲ニ損所ヲ生シ又ハ其ノ樞要部ニ疵瑕ヲ生シタル爲メ検査ノ必要アリト認ムルトキハ發射數ニ關セス前項ニ依リ臨時臆中検査若ハ發射試驗ヲ請求スヘシ

艦艇長ハ前二項ノ検査若ハ試驗ヲ本籍鎮守府所屬ニアラサル海軍工廠長ニ請求シタルト

キハ直ニ本籍鎮守府司令長官(鎮守府司令長官ニ直屬セサ)ニ報告スヘシ(艦艇ハ直屬長官ヲ經テ)

第三十五條 砲煩ノ臆中検査ヲ行フトキハ砲身、砲架其他ノ附屬品等樞要部ヲ併セテ點檢スヘシ

第三十六條 艦團隊等ニ供用中ナル彈藥並ニ火工品類ハ毎年一回其ノ全數ノ百分ノ一以下(百未滿ナルトキハ其ノ内一箇)ノ數ヲ擇出シテ海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ニ試驗検査ヲ要求スヘシ

但シ必要ニ依リ其ノ數ヲ増減スルコトヲ得

第三十七條 海軍工廠長若クハ海軍造兵廠長ハ前條ノ要求ヲ受ケタルトキハ試驗検査ヲ施行シ其ノ成績表ヲ第五號表式ニ依リ二通ヲ作成シ一通ヲ海軍總政本部長ニ提出シ一通ヲ試驗要求元ニ交附スヘシ

第三十八條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠在庫ノ彈藥並ニ火工品類ノ試驗検査ハ前二條ニ準據シ之ヲ執行スヘシ

軍艦朝日搭載大砲公試發射成績表

第二號表式甲

砲種十二尹安士得龍砲砲位番號前砲搭左砲												{砲身 砲架	12461號 12450號
明治三十五年六月 日						伊豆國大島附近ニ於テ施行							
天候快晴		溫度 80°		濕氣 38		晴雨計 30,00		風力 2		風向			
始射時午前十時						終射時午前十時三十分							
公試委員長官姓名 ㊦	砲	射 順	一 回	二 回								記 事 榴 弾 筒 榴 弾 筒 榴 弾 筒 常 用 榴 弾 筒 ハ 用 榴 弾 筒 丸 以 榴 弾 筒 彈 ヲ 以 榴 弾 筒	
		裝 藥 種	紐 狀	”									
		裝 藥 量	60	”									
		俯 仰 度	水 平	仰 5									
		旋 回 度	右 45	左 90									
		退 却	800	801									
		閉 鎖 器	支障ナシ	”									
		閉鎖裝置	手 動	支障ナシ	”								
			自 動										
		殼 拔 裝 置	支障ナシ	”									
	煩	擊 發 裝 置		支障ナシ									
		電氣發火裝置	支障ナシ										
		駐 退 機	支障ナシ	”									
	砲	進 退 機	支障ナシ	”									
		俯 仰 機	人 力										
電 力				支障ナシ									
水 力		支障ナシ											

但シ必要ニ依リ其ノ
第三十七條 海軍工廠長
行シ其ノ成績表ヲ第五
試驗要求元ニ交附スヘ
第三十八條 海軍工廠若
シ之ヲ執行スヘシ

但シ試験検査ニ供スヘキ數ヲ半減スルコトヲ得

第三章 陸揚搭載

第三十九條 艦艇ノ供用兵器中大砲、水雷發射管又ハ發電機等ノ如キ本艦ノ勢力ニ關スルモノヲ修理若ハ試験検査等ノ爲一時揚陸セントスルトキ及之ヲ搭載シタルトキハ其ノ艦艇長(艦艇長ナキトキハ之ニ準スヘキモノ)ハ其都度直ニ現狀報告用紙ヲ以テ海軍大臣ニ報告スヘシ
(以下表式ハ略ス) 備考 本書ニ在テハ次ニ第二號表式用ノミヲ附ス

明治四十年十二月二日達第一三五號

兵器造修試験検査規則中公試發射ノ内砲煩命中發射ハ何分ノ儀達スルマテ中止スヘシ

四季及小演習用消耗兵器年額表(四十一年十月二十三日) 達第百二十八號

種類	數量			量	記事
	供用部 門 每 艦	每艦 逐艦 每水雷艇	每敷設隊 每發射機 每望樓		
十二尹以上ノ砲	一〇				
八尹速射砲及十二尹未滿ノ 通常砲	三〇				
十二尹以上ノ速射砲	四〇				
十二尹未滿ノ速射砲	六〇				
小銃	一五〇				
號火用雷管	二〇				長短二種ニ等分ス但シ望樓 ニハ長ヲ供給ス
信號火箭 尾索アルモノ	三〇	一〇	一〇		
尾杆アルモノ	一五	二〇	一五		
同	五		五		
同用火管	三〇	三〇	三〇		
緩火索	五	三	四		
魚形水雷衝突頭部				一	在役及第一豫備艦艇ノ發射 管ノミニ供給ス
魚形水雷發射火藥				五〇	

同用電氣火管					七五	電氣發射機ノモトニ在リテハ發射機ニ 兩極ヲ通シ七五部ヲ供給スルコトヲ得
同用擊發火管					七五	
發光器					五〇	衝突頭部ヲ發射シ得ル望樓ニハ其内衝突 機用ノモノ三箇ヲ供給スニハ其内衝突 機用ノモノ二箇ヲ供給スルコトヲ得
大形爆發藥付探海鐘		四				
小形同		二				
大形釣付試力鐘		四				
小形同		二				
障礙物破壞用藥罐大形爆發 藥付探海鐘用藥罐ニ同シ		四	二			
海底水雷				一		必要ニ應シ彼是流用スルコ トヲ得
浮漂水雷				一		備へ付ナキ敷設隊ハ除ク
電氣觸發水雷				一		
電氣機械水雷				一		
假裝海底水雷				三		一四三付 以內一五〇吉瓦 右同
同浮漂水雷				三		必要ニ應シ彼 是流用スルコ トヲ得
同電氣觸發水雷				三		同四五吉瓦以內
同電氣機械水雷				三		同二五吉瓦以內

兵備品會計官吏ハ其ノ保管ノ經營需品ヲ相互間ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得

要港部防備隊及需品支庫兵備品會計官吏ハ艦船在籍ノ何レヲ問ハス船營需品ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該艦船ノ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ

第四條ノ二 海軍工廠ニ於テ調辨シ新造艦艇ニ初度備付ヘキ備品ハ其ノ工廠需品庫兵備品會計官吏ニ於テ保管シ其ノ艦艇兵備品取扱主任ニ引渡シ領收票ヲ得テ成規ニ依リ處理スヘシ但シ相當ノ乗員ナキ以前ニ備付ヲ要スルトキハ機裝委員若ハ豫備艦部長ニ引渡シ臨時貸與トシテ整理スヘシ

新造雜役船ニ初度備付ヘキ備品ノ取扱整理ハ前項ニ準ス

第五條 經營需品定額表經營需品貸與品表並ニ經營需品ノ制式及品質(石炭ヲ除ク)ハ艦政本部長ノ定ムル所ニ依ル但シ制式ナキモノハ適宜ノ品種ニ依リ制式ニ依リ難キモノアルトキハ圖案ヲ附シ艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 艦政本部長ハ毎年度艦團其ノ他各部ニ供給スル經營需品ノ主管別金額ヲ定メ之ヲ鎮守府ノ艦政部長ニ通知スヘシ

第七條 鎮守府艦政部長經營需品ノ品種及數量ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキハ艦政本部長ニ請求スヘシ

第八條 鎮守府艦政部長第六條ノ主管別金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ鎮守府兵備品出納命令官ニ移牒スルト同時ニ之ヲ艦團其他各部ノ長(艦隊司令官及要港部ニ在リテハ參謀長艦隊司令官ニ在リテハ先任參謀トス以下做之)ニ告知スヘシ

第九條 鎮守府艦政部長艦團其ノ他各部ノ主管別金額増減ノ必要ヲ認メタルトキハ艦政本部長ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ同一艦團其ノ他各部ノ主管別金額ニ在リテハ鎮守府艦政部長之ヲ増減シ艦政本部長ニ報告スヘシ但シ備品ト消耗品ト又備品中食器ト他ノ備品ト及消耗品中石炭ト他ノ消耗品トヲ増減スルコトヲ得ス

第十條 艦團其他各部ノ長ハ經營需品定額表及主管別金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ經營需品ヲ處辨スヘシ

但シ第十六條及第十八條ニ依リ購入スルモノハ主管別金額外トス

艦團其ノ他各部ノ長ハ經營需品定額表ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキハ各主管別金額増減ノ必要アルトキハ其ノ増減更訂ヲ所管者ハ在籍鎮守府兵備品出納命令官ヲ經テ海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ハ主管別金額簿(書式第一號)ヲ設備シ主管

別金額ノ計算ヲ明瞭ナラシム

第十二條 分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任備品及消耗品ノ受入若ハ修理ヲ要スルトキハ請求票ニ主管別金額簿ヲ添附シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

兵備品取扱主任材料品ノ受入ヲ要スルトキハ預リ證ニ製作品ノ品名數量及製作ノ期限ヲ記入シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

兵備品取扱主任貸與品ヲ要スルトキハ借用票ニ使用ノ目的及借用期間ヲ記入シ兵備品會計官吏ニ請求スヘシ

第十三條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品會計官吏隔絶ノ爲メ他ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ經營需品ヲ請求スルトキハ主管別金額簿ノ謄本ヲ添附請求シ請求ヲ受タル分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任之ヲ供給シタルトキハ自己ノ主管別金額簿ノ謄本ニ請求者ノ主管別金額簿ノ謄本ヲ添へ所屬兵備品會計官吏ニ送附シ供給金額ノ更訂ヲ請求スヘシ

第十四條 航海ノ役務ニ服セサル艦船及團部ニ於テ特別ノ場合ヲ除ク外主管別金額ノ凡ソ三分ノ一以上ノ經營需品ヲ一時ニ請求スルトコトヲ得ス

第十五條 兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル團部ニ於テハ兵備品會計官吏ニ

經營需品ノ繰上渡ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ兵備品會計官吏繰上渡ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量代價ヲ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ報告スヘシ

第十六條 別表第二號ノ經營需品ハ艦團其ノ他各部ニ於テ直接購買スヘシ其ノ數量ハ經營需品定額表ニ依ル

前項ノ經營需品ハ兵備品會計規程第二十二條ノ手續ヲナササルモノトス但シ其品名數量代價ヲ年度經過後十日以内ニ在籍鎮守府需品庫ヲ經テ艦政本部ニ報告ス

第十七條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任經營需品購買ノ必要アルトキハ所轄長ニ請求シ、該長ハ主計長(主計長アラサルトキハ現金前渡官吏)ヲシテ之ヲ購買セシムヘシ

第十八條 在外艦船ニ於テ別表第二號以外ノ經營需品ヲ要スルトキ又ハ規定ノ經營需品ヲ得ル能ハサルトキハ適宜購買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量代價用途購買地購買年月日及事由ヲ詳記シ兵備品會計官吏ニ報告シ所管若ハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ハ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ

第十九條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任經營需品中不用ニ屬シタルモノ又ハ毀損品アルトキハ何レノ海軍需品庫ヲ問ハス之ヲ還納スルコトヲ得

第二十條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任空樽空罐ノ如キ不用品ヲ生シタルトキ

ハ所管若ハ在籍鎮守府海軍工廠需品庫ニ納付シ所管若ハ在籍鎮守府海軍工廠需品庫隔絶ノ爲メ納付ノ便ヲ得ス保管シ難キ場合ハ所轄長ノ承認ヲ得テ適宜ノ處分ヲナシ其ノ品名及數量ヲ所管若ハ在籍鎮守府海軍工廠需品庫ニ報告スヘシ

第二十一條 鎮守府兵備品出納命令官ハ艦團其ノ他各部ノ主管別金額簿(書式第二號)ヲ設備スヘシ

第二十二條 分任兵備品會計官吏ハ消耗品拂出簿(書式第三號)兵備品取扱主任ハ兵備品供用簿貸與品貸出簿(書式第四號)及消耗品拂出簿ヲ設備スヘシ

第二十三條 兵備品會計官吏艦營需品ヲ供給シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ主管別金額簿ニ供給金額ヲ登記シ又第十三條ニ依リ主管別金額簿ノ謄本ヲ受ケタルトキハ供給金額ヲ甲乙更訂シ各分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ返付スヘシ

第二十四條 兵備品會計官吏他所屬ノ兵備品取扱主任ニ第一種消耗品ヲ供給シ若ハ其ノ保管ニ係ル備品ノ修理ヲ爲シタルトキハ該兵備品取扱主任所屬ノ兵備品會計官吏ニ其ノ代價ヲ通知スヘシ

第二十五條 兵備品會計官吏在庫品中廢物ニ屬シタルモノ又ハ毀損品ニシテ使用ノ見込アルモノハ修理若ハ改造シ其使用ニ堪ヘサルモノハ他ノ物品ニ換用シ或ハ不用品トシテ處分スヘシ

第二十六條 兵備品會計官吏分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任其ノ保管若ハ取扱ニ係ル艦營需品ノ亡失毀損廢取損廢アリタルトキ又ハ棄却燒却ヲ要スルトキハ證明書(書式第五號)ヲ作り所管若ハ在籍鎮守府兵備品出納命令官ニ出スヘシ

第二十七條 兵備品出納命令官ハ毎年度經過後五箇月以内ニ主管別金額決算表ヲ兵備品會計官吏ハ同期間ニ艦營需品出納報告ヲ調製シ鎮守府艦政部長ヲ經由シ艦政本部長ニ出スヘシ

第二十八條 分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ハ毎年度經過後三箇月以内ニ備品消耗品受拂現況報告ヲ調製シ所管若ハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ送付スヘシ兵備品出納命令官ハ之ヲ調査シ鎮守府艦政部長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ

第二十九條 本規程中艦營需品定額表ノ増減更訂及主管別金額増減請求書主管別金額決算表艦營需品出納報告備品消耗受拂現況報告直接購買報告ノ書式ハ艦政本部長ノ定ムル所ニ依ル

第三十條 艦隊司令長官及同司令官用艦營需品供給ノ整理ハ横須賀鎮守府兵備品會計官吏

蠅捕用網 郵便線路圖 糊

アンモニーヤ、ランハイドロース(製氷機用)

備考

一、薪、木炭ハ軍港外ニアル艦團其ノ他各部ノミニ適用ス

二、備品中椅子、腰掛、蒲團、食卓ノ覆及窓掛ノ洗濯費ハ本表ノ購買ニ準シ取扱フヘシ

艦營需品貸與品表

砲術長主管

品名	貸與ノ區別
天幕	臨時必要ノ時以下記事ナキハ同斷
呑水入	
標的曳索	大砲發射ノ時
標的用絡車臺共	同
柔道着 <small>(帶、何レモ刺絲)</small>	候補生練習艦ニ乗組中十六組以內

柔道用疊	同	十二枚以內
擊劍道具 <small>(面、颯、甲手、垂、竹刀、二人ニ付キ三本以內)</small>	同	十八組以內
第一種標的 <small>(適宜鑿留用ノ索具ヲ附ス)</small>	同	大砲發射ノ時
同	幕	同
第二種標的 <small>(適宜鑿留用ノ索具ヲ附ス)</small>	同	同
同	幕	同
第三種標的 <small>(適宜鑿留用ノ索具ヲ附ス)</small>	同	同
同	幕	同
小銃射擊標的	同	小銃射擊ノ時
拳銃射擊標的	同	拳銃射擊ノ時

書式第一號(1)(用紙礬水引美濃半切)

明治(何)年度

(何)長主管

(何)ノ部

主管別金額簿

(某 艦 團 部)

(備考)

- 一 本簿ハ備品消耗品石炭ニ区分シ各別ニ設クヘシ
- 二 經營需品經理規程第二十三條ニ依リ供給金額ヲ記載シタル簿本ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ本簿ニ登記シ其ノ簿本ヲ本簿ニ添付シ置クヘシ

書式第一書(2)

(考 備)

(何)年度	主管別金額	(何)長主管	(何)ノ部
	告知金額 所轄長 1,115,000 円	供給金額 所轄長 550,000 円	差引殘 575,000 円
		分任兵備品會計官吏 又ハ兵備品取扱主任 575,000 円	何第何號告知金額
		何々外何廉供給 何月何日某需品庫 兵備品會計官吏 何々外何廉某艦ヨリ供給ニ係ル分何月何日某需品庫簿本ノ通り 375,000 円	記 事

海 軍
九九

書式第三號(1)(用紙表紙)

備考

- 一、本簿ハ第一種第二種ニ區分シ各別ニ設クヘシ
- 二、機關長主管ノ航海用品ハ平常用トシ區分整理スヘシ

明治(何)年度

(何)長主管(何ノ部)

消耗品拂出簿

(某艦團部)

書式第四號(用紙表紙)

備考

本簿供用者欄内ニハ供用者記名捺印スヘシ

明治(何)年度

(何)長主管(何ノ部)

(備品供用簿)

(某艦團部)

何第何號

兵備品會計官吏
分任兵備品會計官吏ノ番號
兵備品取扱主任

總營需品備品(何々)供用中(保管中)左記理由、通り亡失(何々)致候條此段證明候也

明治何年何月何日

兵備品會計官吏(分任兵備品會計官吏
兵備品取扱主任) 職氏名印

兵備品出納命令官氏名殿

品名	數稱	數量	單價	代價	價	摘要
何々	組	一	三〇〇〇	三〇〇〇	四	
何々	個	二	一〇〇〇	二〇〇〇		
計				五〇〇〇		

右ハ何年何月何日何々ニ依リ保護スルノ術ナク何々何々ニ依リ亡失(何々)セシヲ證明ス
右ノ亡失(何々)ハ何々ト認ム

明治何年何月何日

兵備品出納命令官 (艦團部長) 氏名印

備考 備品ノトキハ供用中トシ貸與品、消耗品ノトキハ保管中ト記スルヲ要ス(編者附記)

明治四十年九月三十日艦本第三四四二號ニテ規定 (用紙美濃十三行罫)

直接購買報告

品名	數量	單價	代價	價	航海用又 ハ平常用	購買地	購買 年月日	事	由

右報告候也
年 月 日

某廳兵備品會計官吏宛

某艦分任兵備品會計官吏氏名印

艦政部長印 (用紙美濃十三行罫紙)

一一四

年月日

艦政本部御中

何第何號

艦營需品増(減)額(更訂)請求

兵備品取扱主任(分任兵備品會計官吏)職氏名印

本艦定額表何長主管(掌帆ノ部)備品(消耗品)ノ數量(品種)左記ノ通りニ増(減)額(更訂)相成度

明治 年 月 日

鎮守府艦政部長氏名殿

某艦團部長氏名印

兵備品出納命令官印

兵備品會計官吏印

品名	數稱	現定數	増(減)額ヲ要スル數	理	由
何々	個	三〇		何々ノタメ既定數ニテハ不足ニ付増	
何々	組			何々ノタメ本品追加ヲ要ス	

艦政部長印 (用紙美濃十三行罫紙)

何第何號

何長主管別金額増(減)額請求

分任兵備品會計官吏(兵備品取扱主任)職氏名印

何年度何長(掌帆ノ部)主管別金額左記ノ通り増(減)額相成度

明治 年 月 日

某艦團部長氏名印

艦政本部御中

年月日

鎮守府艦政部長殿

兵備品出納命令官印

兵備品會計官吏印

告知金額	増(減)額	現殘額	増額ヲ要スル金額	記	事
一〇〇〇〇〇 円	五〇〇〇〇 円	二五〇〇〇 円	二〇〇〇〇 円		
何々ノ爲メ今後本年度内左記ノ通受込ヲ要ス (備品ニハ左ノ式ヲ用フ)					
品名	數稱	現供用數	引換(何々)要スル數	單價	代價
何々	個	三〇	五	三〇〇〇 円	一五〇〇〇 円
何年何月某庫ニ於テ供給ヲ受タル分毀損					

一一五

砲術長主管兵備品出納受拂取扱要旨

- 第一 砲術長主管ニ屬スル兵備品ハ兵器及艦營需品トス
- 第二 兵器ノ出納受拂ニ關シテハ專ラ海軍兵備品會計規程、兵器經理規程及兵器造修試驗検査規則ニ依ルヘキモノトス
- 第三 艦營需品ノ出納受拂ニ關シテハ專ラ海軍兵備品會計規程及艦營需品經理規程ニ依ルヘキモノトス
- 第四 砲術長第二種消耗品ヲ取扱フトキハ分任兵備品會計官吏ノ名稱ヲ冠シ備品、第一種消耗品、貸與品、材料品等ヲ取扱フトキハ兵備品取扱主任ト稱スル名稱ヲ冠スルモノトス
- 第五 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ノ缺損、棄却、及天災其他ノ事項ニ依リ亡失、毀損等ノ爲ニ生スル物品ノ損失ニ對シ正當ノ理由ナキモノハ辨償ノ責アルモノトス
- 第六 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ヲ組替ノ爲メ受入又ハ拂出スルトキハ組替票(兵備品會計規程第七號書式)ヲ作り證憑トナス

- 第七 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任兵備品ヲ拂出スルトキ缺損拂ニ在テハ缺損票、亡失、棄却拂ニ在テハ離權票ヲ以テ證憑トナスヘシ
- 第八 分任兵備品會計官吏若クハ兵備品取扱主任兵備品ヲ受領シタルトキハ送付票之ヲ還納シタルトキハ還納品領收票ヲ以テ證憑トナスヘシ
- 第九 分任兵備品會計官吏若クハ兵備品取扱主任其保管若ハ取扱ニ係ハル兵備品ニシテ出納上剩餘ヲ生シタルトキハ納票(兵備品會計規程第八號書式)ヲ作り事由ヲ附シ又出納受拂上若ハ貯藏中減耗ヲ生シタルトキハ缺損票、兵備品會計規程第十號書式)ヲ作り事由ヲ附シ出納命令官ノ指揮ヲ受ケ元受若ハ拂出ヲナス
- 又兵備品ヲ棄却スヘキ必要アルカ若ハ天災其他ノ事故ニ因リ亡失、毀損シタルトキハ兵器經理規程及艦營需品經理規程ニ於テ定ムル所ノ報告書及證明書類ヲ添へ出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ
- 但シ前二項ノ場合ニ於テ所屬兵備品出納命令官ト遠隔ノ地ニ在ルカ又ハ至急處分ヲ要シ其指揮ヲ受クル邊ナキトキニ限り所轄長ノ證明ヲ得テ之カ處分ヲナシ品名、數量事由ヲ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告スヘシ
- 第十 前條ノ場合ニ於テ兵備品取扱主任ハ其證憑書類(納票、缺損票、離權票)及關係書類

(證明書、報告書)ヲ所屬兵備品會計官吏ニ送付シ分任兵備品會計官吏ハ所屬兵備品會計官吏ヨリ該物品價格ノ通知ヲ受ケ其證憑書類(納票、缺損票、離權票)ニ記入スヘシ

第十一 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任出納及受拂ノ諸票(請求票、領收票、送付票、還納票等)ヲ作ルトキハ備品、消耗品、貸與品、材料品各別ニ調製スヘシ假令同時ニ出納受拂ヲナストキト雖必ス各別紙ニ認メ決シテ混記スヘカラス
消耗兵器ヨリ生シタル備品、消耗品ハ又普通ノ備品、消耗品ト混記スヘカラス
此等諸證憑ハ自己ノ手控トシテ一通ヲ餘分ニ作成スル方若クハ控ニ要スル適宜ノ帳簿ヲ設備シ置クヲ可トス

兵備品會計規程兵器經理規程及艦營需品經理規程等ニ基キ提出スヘキ各種報告書類又同シ

分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ヨリ提出スヘキ此等諸證憑ニハ代價記入ヲ要セス但兵器經理規程第十二條ノ場合ニ於テ分任兵備品會計官吏ノ所掌タル兵器ノ第二種消耗品ヲ交付スル送付票ニハ之ヲ記入スルヲ要ス

第十二 分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ノ保管スル兵備品及其出納受拂ニ關スル諸帳簿並ニ證憑書類等ハ通例毎年一回若ハ臨時所屬海軍經理部ニ於テ検査ヲ施行ス此場合

ニ於テハ經理部ヨリ當該艦團各部ノ検査日割ヲ豫報セラルルヲ以テ分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任或ハ掌砲長ハ關係書類帳簿等ヲ經理部ニ持參スルヲ要ス但シ現品ハ經理部員自ラ艦團各部等ニ臨檢スルヲ例トス

第十三 掌砲長ハ機會ヲ得ル毎ニ時々砲術長主管兵備品ノ原簿及受拂簿ヲ所屬兵備品會計官吏ノ關係帳簿ト照合シ相互ノ誤謬及記帳漏等アラハ猶豫ナク之ヲ訂正シ置クヲ要ス

第十四 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任即チ砲術長交代其ノ他ノ爲メ異動ヲ生シタルトキハ掌砲長ハ其前後任官吏ノ管理期ノ終始年月日ヲ確メ置クヲ要ス

第十五 兵備品ノ取扱實施ニ於ケル瑣細ノ事項ハ各工廠ニ於テ多少其方法手續等ヲ異ニスルモノアルヲ以テ艦團其他各部ノ掌砲長ハ豫メ當該工廠造兵部及需品庫等ノ執務内則等ニ通曉スルヲ要ス假令ハ毀損兵備品還納ノ場合ニ於ケル検査ノ如キ工廠検査官所在應ニ於テ施行スルモノト武庫或ハ需品庫等ノ兵備品會計官吏若ハ其屬員ニ於テ施行スルモノアルカ如キ又艦營需品ノ授受時日ヲ週内ノ某曜ト豫定シアルモノアルカ如キ其他兵備品會計官吏ト分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任トノ間ニ往復スル證憑書類ノ提供期日ヲ一定シアルカ如シ

第十六 兵備品ノ出納受拂ニ關シ分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ニ於テ設備スヘキ

帳簿書式ハ各其規程ニ於テ明示シアルモ實際ノ記入其他取扱等ハ尙ホ詳細說述例示スルノ要アリ故ニ此等ハ兵器及經營需品出納受拂取扱要旨中ニ更ニ揭示ス

第十七 執務上ニ關スル諸證憑其他報告、請求、證明等ノ諸書式ハ海軍兵備品會計規程、兵器經理規程及經營需品經理規程等ニ於テ一定ノ様式ヲ定メラレタルモノト否ラサルモノトアリ其後者ニ屬スルモノハ明治四十年十月官房第四〇一八號ヲ以テ定メラレタル海軍部内往復文書様式ニ則リ簡明適切ニ其事實ヲ掲記スルヲ要ス而テ所轄長ノ名義ヲ以テ提出スヘキモノハ通例砲術長(掌砲長)ニ於テ豫テ設備セル諸求簿(通例半紙全葉罫紙ヲ使用スル適宜ノ帳簿)ニ隨時所要ノ事項ヲ起案シ該長ノ承認ヲ得タル後之ヲ庶務課ニ回附シ進達ノ手續ヲ請求スルヲ要ス

分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ名義ヲ以テ提出スヘキ書類ハ掌砲長之ヲ調製シ砲術長ノ承認及必要ノ手数ヲ經タル後之ヲ庶務課ニ移牒シ進達ノ手續ヲ請求スルヲ例トス但シ兵備品ノ受入、還納等ニ要スル諸證憑類ノ送達ハ關係官廳遠隔セル場合ノ外直接掌砲科ニ於テ授受ス

前項ノ書類ニ點附スヘキ番號ハ單ニ第一號第二號等ト記スヘキモノト又或ハ其艦、團、部、隊、校等ノ略名ニ續キ兵器ニ在リテハ砲兵營需品ニ在テハ砲需ヲ冠セシムルヲ可ト

スルモノアリ假令ハ香取ノ砲銃兵器ニ關スル書類ニ在ツテハ香取砲兵第一號吳海兵團ノ砲術長主管經營需品ニ關スル書類ニ在テハ吳海團砲需第二號等ノ如シ

同時ニ作成スル同性質ノ書類二葉以上ニ亘ルトキハ更ニ其番號ヲ附スルヲ通例トス即チ第一號ノ一、香取砲兵第一號ノ二等ノ如シ

番號ニ對スル件名ヲ摘要シ置クトキハ啻ニ其順序ヲ錯亂セサルノミナラス後日該書類ニ關スル事故發生ノ際等ニ於テ調査上大ニ便宜ヲ感スヘキモノナルヲ以テ之カタメ豫メ適宜ノ簿冊(書類番號件名摘要簿?)ヲ設備スルヲ可トス

兵備品會計規程書式中ノ第六號乃至十號ノ從來使用ノ用紙現存スル限り混用シ得ルモノトス

第十八 兵備品會計規程、兵器經理規程及經營需品經理規程等ニ於テ其意義ノ疑ヲ存スヘキモノ及解釋ニ必要ナル參照事項ノ大略ヲ左ニ示ス

一、出納 兵備品ノ消耗、賣却、亡失、毀損、生産ノタメノ消費及其他兵備品會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入、生産及其他保管ニ屬スルヲ納トス即チ兵備品ノ出トハ會計官吏若ハ分任兵備品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ云ヒ納トハ其保管ニ屬スルモノヲ云フ

- 分任兵備品會計官吏ニ在テ出納ト同意義ノ事項ヲ兵備品取扱主任ニ在テハ受拂ト稱ス
- 二、消耗 トハ其物固有ノ用途ニ向ツテ消費セラルルコトニシテ假令ハ射撃ニ於ケル裝藥ノ燃焼若ハ筆墨ノ消磨セラルル如キヲ云フ
 - 三、亡失 トハ紛失、消滅等ニテ消耗ノ如キ自然ノ用途ニ充テラルルニアラスシテ其形體ヲ失フヲ云フ
 - 四、毀損 トハ其形體ノ全部ノ紛失、消滅ニアラスシテ其一部分ノ破壊又ハ其用ヲナササルニ至ルヲ云フ
 - 五、生産ノタメノ消費 トハ其兵備品ヲ材料トシテ他ノ一種別個ノ兵備品ヲ製造スルタメニ消費スル場合ニシテ小銃架覆ヲ製作スルニ帆布ヲ使用スル如キヲ云フ
 - 六、腐敗 トハ紛失、消滅等ノ如ク其ノ形體ヲ失フニアラス又ハ毀損ノ如ク其ノ形體ノ一部ヲ毀損シタルニアラスシテ只其形體ニ異狀ヲ來タシ其用ヲナササルニ至ルヲ云フ
 - 七、損廢 トハ藥品等脱氣甚ダシク又或ハ火藥ノ遊離等ノ如キ全ク其ノ用ヲナササルニ至ルヲ云フ
 - 八、棄却トハ使用スル能ハサルニ至リタルモノヲ遺棄スルヲ云フ
 - 九、燒却トハ使用スル能ハサルニ至リタルモノヲ燒棄スルヲ云フ

十、缺損トハ亡失、腐敗等ノ結果ニアラスシテ出納保管上已ムヲ得サルニ出ツル減耗等ヲ云フ

十一、生産 トハ或ル材料品ヲ以テ新ニ兵備品ヲ製作スルヲ云フ

十二、還納 トハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任カ一度兵備品會計官吏ヨリ受領シタルモノヲ最早使用ニ堪ヘサルニ至リ又ハ使用スルノ必要ナキニ至リ會計官吏ニ返付スルヲ云フ兵備品使用者カ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ返付スル場合亦同シ

十三、複生 トハ或ル兵備品ヲ製作ノ傍ラ自然ニ一兵備品ヲ生出スルヲ云フ

十四、保管轉換 トハ甲兵備品會計官吏ノ手ヲ離レテ乙兵備品會計官吏ノ保管ニ移ルヲ云フ

十五、改造 トハ或ル兵備品ニ製作ヲ加ヘ多少其形體ヲ變スルヲ云フ

十六、組替 トハ或ル兵備品ヲ保管又ハ使用上ノ結果其取扱ヲ變スルヲ云フ假令ハ備品タル實用彈藥ヲ消耗品名目ニ變スルカ如シ此場合備品ハ組替拂トナシ消耗品ニ組替受ヲナスモノナリ

十七、更訂 トハ或ル兵備品ノ名稱ヲ變更セラレタル如キ場合ニ起ルモノニシテ舊名稱

ノモノハ之ヲ更訂拂トナシ新名稱ニ更訂受ヲナスモノナリ假令ハ四十七密米保式重速射砲砲口栓ヲ四十七密米山内輕速射砲名義ノ砲口栓トナス等ノ如シ

十八、繰上渡 トハ次年度分ヲ前年度ニ受入ルルコトヲ云フ

十九、年度 兵備品會計規程其他各經理規程等ニ於ケルモノハ一般ノ會計年度ニシテ即チ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ云フ而テ其四月ヨリ九月迄ヲ前半期ト云ヒ十月ヨリ翌年三月迄ヲ後半期ト稱ス

砲銃各種ノ射擊其他教育等ハ大抵毎年十二月一日ニ開始シ翌年十一月三十日ニ終ル故

ニ之ヲ射擊年度若ハ教育年度ト稱スルコトアリ

二十、在籍、所管 在籍トハ艦艇ニ所管トハ固定セル團、部等ニ對シ稱呼セルモノナリ

二十一、檢閲官、下検査官吏 トハ通常其所屬ノ經理部長ヲ指稱シタルモノトス

二十二、鎮守府艦政部長 トハ現下ノ職制ニテハ海軍工廠長ニ該當ス

參照事項

兵備品會計規程第三十六條用

物品出納證明規程

第五條 物品出納ノ證據トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一、物品會計規則第六條ノ規程ニ依リタル命令書及領收證書但シ監督ノ責アル官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

物品會計規則

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規定ニ依リタル命令アルニ非サレハ物品ヲ出

納スルコトヲ得ス

兵備品會計規程第三十七條用

海軍兵備品會計規則

第四條 物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計檢査院ニ送付スル計算書中ノ兵器彈藥

水雷、及其附屬品並ニ秘密圖書測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閲官ノ證明書ヲ

以テ保證スヘシ

物品會計規則

第十五條 物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クルタメ毎年度間ニ執行シタル物品出

納ノ計算書ヲ製シ會計檢査院所定ノ期限内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其

下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

兵備品出納受拂帳簿諸證憑用紙書式第十三號用

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精密ニ検査セシメ其調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ

兵器經理規程第二十七條用

砲煩射擊規則トアルハ艦砲射擊規則ニ該當ス

第十九 諸帳簿其他記帳用ノ羅馬數字書體ハ漸次「ラウンドタイプ」式ニ一定スヘキモノトス而テ其書體ハ左ノ如シ

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
					5	6	7	8	
			2	3	4	5	7		
			9	2	1	0	4		
		1	2	3	8	7	8		
			1	0	0	4	5		
			4	5	8	7	2		
		3	4	6	6	7	7		
		9	0	4	2	1	3		
					1	4	2		
					5	6	7	8	

砲術長主管兵器出納受拂取扱要旨

- 第一 兵器ハ砲銃、水雷ノ二部ニ大別ス而テ砲術長主管ニ屬スルモノハ其砲銃ノ部ノミトス
- 第二 兵器ハ備品、消耗品ニ區別シ消耗品ハ更ニ第一種第二種ニ區分ス
- 第三 艦團其他各部ニ供給セラレタル兵器ハ之ヲ供用兵器ト稱シ武庫其他ニ貯藏スルモノハ之ヲ在庫兵器ト稱ス
- 第四 艦團其他各部ニ要スル常備兵器ノ定數ハ兵器簿ニ規定シアルカ故ニ不足若ハ缺乏等ヲ生シタルトキハ時機ヲ失セス補充シ置クヲ要ス
- 第五 兵器簿未制定ノ間ハ豫定兵器簿ニ據ルモノトス
豫定兵器簿ニ依リ供給ヲ受ケタル艦團其他各部ニ在リテハ約一ケ年間實際ノ適否ヲ精査シタル後其艦團隊長ハ之ニ意見ヲ附シ在籍又ハ所管鎮守府司令長官（艦隊要港部ニ在リテハ所屬長官ヲ經由ス）ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ最寄鎮守府司令長官ニ提出スヘキモノトス

第六 演習訓練等ニ使用スル消耗兵器ノ種類數額等ハ艦砲射擊規則、野砲小銃及拳銃射擊

規則、四季及小演習用消耗兵器年額表、縮射彈藥消耗年額表及海軍艦隊下士卒教育規則等ニ由リ規定シアルカ故ニ必要ノ時機ニ受入ルヘシ

艦砲射撃規則ニ據ル艦砲及艇砲射撃ニ要スル彈藥類ノ數額及艦艇役務ノ種類ニ依リ施行スヘキ射撃ノ種類等ハ毎年射撃年度ノ初期ニ於テ内令ヲ以テ一般ニ告達セラル又大演習ニ使用スル消耗兵器ハ施行ノ際之ヲ規定セラルモノトス

禮砲、號砲及信號用空放ノ如キハ必要ニ應シ隨時受入請求ヲナスコトヲ得藥莢式大砲用空放ハ外國航海等ノ場合ニ於テハ時トシテハ材料ノ儘交付セラレ艦内ニ於テ裝填ヲナスヲ要スルコトアリ

兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル部團ニ於テハ前項兵器ノ繰上渡ヲ請求スルコトヲ得

第七 兵器ハ海軍大臣ノ認許シタルモノニアラサレハ一切貸與セス

第八 試驗器具及消耗兵器ハ各主管相互ニ流用スルコトヲ得ルモノトス即チ大砲用電氣的諸器具試驗ノ如キ多クハ水雷長主管ノ各種試驗器具ヲ流用スルノ要アリ

第九 團部、隊、校等ニ在ツテハ必ス其所屬兵備品會計官吏(例ハ横須賀海兵團砲術學校ハ横須賀武庫等ノ如シ)ニ兵器ノ受入ヲ請求シ又ハ供用兵器ヲ還納スルモノトス之ニ

反シ艦艇ニ在ツテハ所屬ノ如何ヲ問ハズ現所在地最寄ノ兵備品會計官吏(例ハ横須賀在籍ノ艦艇廣島灣ニ碇泊スルトキハ吳武庫)ニ請求又ハ還納スルコトヲ得

軍樂器ヲ請求スルトキハ兵器經理規程第五條ニ依ルヘシ

第十 兵器ヲ受入レントスルトキハ請求票、領收票各一通ヲ作り供給ヲ受クヘキ兵備品會計官吏ニ出シ現品ヲ受領スルトキハ必ス其送付票ヲ受取、之ニ由リ原簿若ハ受拂簿ニ記帳整理シ該送付票ハ後日ノ證憑トシテ大切ニ保存スルヲ要ス

第十一 供用兵器ヲ還納セントスルトキハ還納票一通ヲ作り還納ヲ受クヘキ兵備品會計官吏ニ現品ト共ニ出シ必ス其還納領收票ヲ受取リ之ニ由リ原簿若ハ受拂簿ニ記帳整理シ該領收票ハ後日ノ證憑トシテ大切ニ保存スルヲ要ス

但シ第二種消耗品還納ニ際シ還納ヲ受クヘキ兵備品會計官吏ト遠隔シ直ニ還納領收票ヲ受取リ難キ場合ニ在テハ物品ヲ送付スルト同時ニ原簿内ノ各地送遺欄其他必要ノ記帳整理ヲナシ置キ他日還納領收票ヲ得タルトキ更ニ決算記帳スルヲ要ス

第十二 送付票及還納領收票等ハ豫メ綴纏ムヘキ臺紙(美濃表紙ヲ用ヒ兵器送付票綴、還納兵器領收票綴等ノ如シ)ヲ設備シ一年度間分ヲ一括シ置クヲ可トス

第十三 裝藥、彈藥、彈丸、信管、火管等ヲ受領シタルトキハ其種目、製造及裝填所名並

ニ其年月等ヲ詳細ニ調査シ記註シ置クヲ要ス故ニ豫メ之ニ對スル適宜ノ帳簿(彈藥類明細簿?)ヲ設備スルノ要アリ此等便宜ノ爲メ目下各工廠武庫ニ於テハ現品ト共ニ供給表ヲ交付スルヲ例トス

同一砲種ノ裝藥ハ可成同一種目ノモノヲ受領スルコトニ注意スヘシ

第十四 受入兵器ニシテ据附、取附等ノ工事ヲ要スルモノ又還納兵器ニシテ取外シ工事ヲ要スルモノニ在テハ普通手續(受入ニ在テハ請求票、領收票、還納ニ在テハ還納票提出)ノ外尙ホ其艦團各部ノ長ヨリ關係工廠長(此關係ハ兵器造修試驗検査規則第五條第七條ノ規定ニ從フヲ要ス)ニ据附、取附ケ若ハ取外シ工事ヲ請求シ承諾ヲ受クルヲ要ス
假令ハ兵器簿中四十七密米速射砲ヲ刪除サレ更ニ六密米五口徑「マキシム」砲ヲ追加サレタルトキハ前者ノ取外シ工事及後者ノ据附工事ヲ請求スルカ如シ又或ハ廣木式小銃口徑外膛砲ノ如キ之ヲ領收シタルノミニテハ使用スルコト能ハサルヲ以テ其取附工事ヲ請求スルヲ要ス

第十五 供用兵器ヲ不用ノタメ還納ノ場合ニハ最初ノ元受品名ニ照シ還納票ヲ作ルヘシ若シ附着扱ノモノヲ分離シ又ハ單獨扱ノモノヲ附着トシテ還納セサルヲ得サル場合ニハ兵備品會計規程第七號書式ヲ用ヒ分割若ハ集合ノ組替手續ヲ履行スルヲ要ス而テ此場合ニ

於テハ兵備品取扱主任ハ其都度兵備品會計官吏ニ詳細報告ヲ要ス

假令ハ小銃ヲ亡失シタルトキ何等カノ事情ニテ其概杖ノミ殘存シ今之ヲ還納セントスルモ元來附着扱ノモノナルカ故ニ受入ニ當リ此名目ナシ故ニ組替票ヲ作成シ之ヲ證憑トシテ受拂簿ニ概杖ノ名目坐ヲ設ケ組替受トシテ記帳整理シ然ル後常ノ如ク還納ノ手續ヲナシ該組替票ハ報告ト共ニ兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

第十六 演習訓練等ノ爲メニ供用セラレタル消耗兵器ノ殘餘ハ孰レモ翌年度ニ持越シ消耗スルコト能ハサルモノナルカ故ニ若シ殘餘ヲ生シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ整理スルヲ要ス

艦砲射擊用彈藥年額表並ニ野砲小銃及拳銃射擊規則ニ據リ供用セラレタルモノハ毎年十一月三十日ニ四季及小演習用消耗兵器年額表ニ據リ供用ノモノハ毎年三月三十一日ニ一旦還納スヘシ

大演習用消耗兵器ノ殘餘ハ其終結後ニ還納整理スヘシ

第十七 艦團其他各部ニ於テ使用上生シタル彈藥其他ノ格納筐、藥莢、插彈子、火管體等ハ必ス兵備品會計官吏ニ還納スルヲ要ス然ルニ此等ハ初メ此名目ヲ以テ受入タルモノニアラサルヲ以テ兵備品會計規程第二十五條ニ基キ組替受入ヲナシ然ル後還納ノ手續ヲナ

スヘキモノナランモ目下各工廠共斯ル手續ヲナサス普通兵器ト殆ント同一ナル方法ヲ執リツツアリ故ニ兵備品取扱主任ハ其整理上別ニ一帳簿(兵備品會計規程第五號書式用紙ヲ使用シ消耗上生出兵器受拂簿?)ヲ設備シ別ニ證憑書類(組替票)等ヲ作成セス單ニ此帳簿ヲ以テ整理スルヲ以テ足レリトス

但シ彈藥筐類ハ各武庫トモ概シテ何等書類ヲ提供セスシテ現品ノミヲ受理ス

三十五年式海軍銃ノ打殼藥莢ハ其實包用ト空放用トヲ區別スルノ要ナキモ縮射彈藥打殼ハ小銃用ト混同スヘカラス

目下各工廠武庫ニ於ケル此等兵器ノ取扱方ハ區々一定セス横須賀及吳ニ於ケル目下ノ手續ハ左ノ如シ

横須賀海軍工廠造兵部武庫

- 一、十二斤砲以上ノ空砲用打殼藥莢ハ第一種消耗品トシテ取扱フ但シ五十七密米砲以下ノ空放用打殼藥莢ニ在テモ特ニ空ノ刻印アルモノ及内部ニ突子ヲ有スルモノハ總テ第一種消耗品扱トス
- 二、前項以外ノ諸物件ハ總テ備品トシテ取扱フモノトス
- 三、還納數量ハ現品ヲ調査シタル後武庫ニ於テ定ム

吳海軍工廠造兵部武庫

如何ナル種類ヲ問ハス總テ備品トシテ取扱フ

第十八 外國航海中ノ艦船又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在ル艦船部團ハ消耗兵器ニ限リ甲乙相互ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於ケル請求者ノ手續ハ普通ノ場合ト異ナルコトナシ供給者ハ該兵器ニ送付票(兵備品會計規程第六號書式)ヲ添ヘ請求者ニ渡シ又別ニ之ニ對スル還納票ヲ作り之ト曩ニ請求者ヨリ徴シタル請求票、領收票ヲ自己所屬ノ兵備品會計官吏ニ送付シ其還納領收票ヲ得テ記帳整理スヘシ

但シ第二種消耗品ニ對スル記帳手續ハ第十一 但書ノ要領ニ從フヘシ

第十九 大砲覆ハ材料(帆布、帆纜絲等)ノ交付ヲ受ケ艦團其他各部ニ於テ製作スルヲ例トス然レトモ其受給手續ハ他ノ備品ト同様トシ兵備品會計規程ニ於ケル材料品ノ取扱ヲナササルモノトス

艦團其他各部ニ於テ製作シ難キトキハ其事由ヲ具シ製作方ヲ工廠長ニ請求スルコトヲ得
第二十 天災其他ノ事故ニ依リ兵器ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ必要ニ依リ棄却シタルトキハ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ其品名數量及事由ヲ詳記シ所轄長ニ報告シ所轄長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ移シ分任兵備品會

計吏若クハ兵備品取扱主任ハ所屬兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ報告スルヲ要ス又之ト同時ニ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ該兵器ニ對スル離權票（兵備品會計規程第十號書式）ヲ作成シ兵備品出納受拂取扱要旨第十條ノ要領ニ從フヘシ
 永年使用ノ結果其性能ヲ失シ用途ニ適セサルニ至リシ重要ナラサル兵器ノ引換ヲ要スルモノハ毀損報告ヲ要セサルモノトス

前諸項ノ場合ニ於テ亡失棄却ニ在テハ離權票ヲ證據トシテ原簿若ハ受拂簿ヲ整理シ毀損ニ在テハ常ノ如ク該兵器ヲ還納シ還納領收票ヲ得テ記帳整理スヘシ

第二十一 毀損、摩耗其他ノ事故ニ由リ其性能ヲ失シ用途ニ適セサルモノヲ處理スルニ當リ引換ヲ請求スヘキカ若ハ修理ノ手續ヲナスヘキヤハ其物件ノ性質及狀況ニ依リ一様ナルヲ得ス要スルニ修理ノ見込ミアルモノハ一應修理請求ノ手續ヲ履行シ工廠若ハ造兵廠等ニ於ケル検査官ノ檢定ヲ經修理不調ノ證明ヲ得タル後ニアラサレハ引換供給ヲ得難キモノトス

前條第二項ニ屬セサル毀損兵器ヲ引換ヘントスルニハ必ス毀損報告其他附帶手續ヲナスノ要アルモ之カ修理ヲ請求スルニ當リテハ此等繁雜ノ手續ヲ要セサルモノトス修理不調ノ證明ヲ得タルトキ又同シ

第二十二 艦團其他各部ニ於テ定數外ノ兵器ヲ要スルカ若ハ定數變更ノ必要アルトキハ所轄長ニ於テ其品名數量及詳細ノ理由ヲ具シ在籍又ハ所管鎮守府ノ工廠長（艦隊要港部ニ在リテハ所屬長官ヲ經由ス）ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在テハ造兵廠長ニ其他ハ最寄鎮守府ノ工廠長ニ請求シ承諾ヲ受クルヲ要ス

但シ艦艇在籍鎮守府ニ遠隔ノ地ニ在リ役務其ノ他ノ都合ニ依リ在籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ前項ノ申請ヲナスノ暇ナキトキハ最寄海軍工廠長ニ申請スルコトヲ得此場合ニ在テハ其旨在籍鎮守府司令長官（艦隊要港部ニ在リテハ所屬長官ヲ經由ス）ニ報告スルヲ要ス

前諸項ノ手續ヲ履行シ承諾ヲ得タル後分任兵備品會計官吏若クハ兵備品取扱主任ハ該兵器ノ受入又ハ還納等ノ處理ヲナスコトヲ得

第二十三 供用兵器ノ増設、改造及修理ヲ要スルトキハ艦團其他各部ノ長ニ於テ其品名數量及詳細ノ理由ヲ具シ在籍又ハ所管鎮守府海軍工廠長（鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦艇等ニ在テハ所屬長ヲ經テ）ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在ツテハ海軍造兵廠長ニ其他ハ最寄鎮守府ノ海軍工廠長ニ請求シ承諾ヲ受クルヲ要ス

但シ役務ニ差支ナキ修理ニ限り所屬長管ヲ經スシテ直ニ海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ其旨所屬長官ニ報告スルヲ要ス

艦艇本籍鎮守府ニ遠隔ノ地ニ於テ兵器ノ増設改造及修理ノ急施ヲ要シ役務其他ノ都合ニ依リ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スルノ遑ナキトキハ最寄海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在テハ其旨本籍鎮守府司令長官（鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦艇ハ所屬長官ヲ經テ）ニ報告スルヲ要ス

承諾ヲ受ケタル修理兵器ハ直ニ關係造兵部工場（造兵廠）ニ其現品ヲ送付スヘシ但シ此際ハ何等書類ヲ添付スルヲ要セス又工場ニテモ之ニ對スル領收票ヲ交付セス故ニ現品ヲ送付スルトキ明細ニ記註シ置クヲ要ス

修理完了シ工場ヨリ現品ヲ送付スルトキハ之ニ對スル送付票及受領票ヲ添付スルヲ以テ兵備品取扱主任若ハ掌砲長ハ該受領票ニ捺印シ之ヲ工場ニ提出シ送付票ハ一括シテ保存シ置クヲ要ス

第二十四 艦團其他各部ニ於テ砲煩ノ常裝藥發射彈數左記ノ定數ヲ超過シタルトキハ其長ハ速ニ海軍工廠長ニ臆中検査ヲ請求スヘシ海軍工廠長ハ検査ヲ行ヒ其成績表一通ヲ試驗要求元ニ交付スヘシ但シ二分一減裝藥ヲ以テスルトキハ二發ヲ以テ常裝藥ノ一發ニ數フ

九 尹 以上

五 十 發

六 尹 以上
十二斤(三尹)以上
二斤半以上

百 五 十 發
四 百 發
八 百 發

前項ノ検査ニ提供スヘキ砲煩中野砲艇砲等、如キ小口徑砲ニ在テハ検査官ノ都合ニ依リ時ニ或ハ之ヲ造兵部工場ニ送致スルヲ要アリト雖モ通例一般ニ艦團各部内ニ於テ施行スルモノトス其何レノ場合ニ於テモ検査終了後ニ於テ成績表ト共ニ該提供砲ニ對スル送付票及受領票ヲ試驗要求元ニ交付サルルヲ以テ修理兵器受領ノ場合ト同シク兵備品取扱主任若ハ掌砲長ハ該受領票ニ捺印シ之ヲ工場ニ提出シ送付票ハ一括シテ保存シ置クヲ要ス検査成績表ニハ通例其備考欄内ニ「發射ニ差支ナシ」「發射スルハ危険ニ付キ廢砲トス」又或ハ「時機ヲ得次第初速試驗ヲ要ス」等ノ判斷ヲ記註セラルルヲ以テ兵備品取扱主任ハ之ニ對シ適當ノ措置ヲナスヘキモノトス

砲ニ損所ヲ生シ又ハ其樞要部ニ疵瑕ヲ生シタルタメ検査ノ必要アリト認ムルトキハ發射數ニ關セス前項ニ依リ臨時臆中検査若ハ發射試驗ヲ請求スヘシ
發射試驗承諾セラルルトキハ試驗委員ヲ組織セラルルヲ以テ該試驗ニ要スル彈藥類ノ受入、發射後ノ消耗報告及殘餘ヲ生シタルトキノ 納手續等ハ總テ試驗委員長（委員長ナ

キトキハ先任委員、委員ナキトキハ該主任官ノ名義ヲ以テ取扱フヘキモノトス
公試發射ニ要スル彈藥類ノ取扱方モ亦之ニ同シ

前記ノ試験、検査ヲ本籍鎮守府所屬ニアラサル海軍工廠長ニ請求シタルトキハ艦艇長ハ直ニ其旨ヲ本籍鎮守府司令長官(鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦艇ハ直屬長官ヲ經テ)ニ報告スルヲ要ス

砲煩ノ膛中検査ヲ行フトキハ砲身砲架其他附屬品等樞要部ヲ併セテ點檢スルモノトス

第二十五 艦團隊等ニ供用中ナル彈藥並ニ火工品類ハ毎年一回海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ニ其試験検査ヲ要求スヘシ

試験検査ニハ其供用全數ノ百分ノ一以内(百未滿ナルトキハ其内一個)ノ數ヲ擇出スルヲ定規トシ但シ必要ニ依リ其數ヲ増減スルコトヲ得ルモノトス

試験検査請求書ニハ供用員數、供給廳名、受入年月、製造(裝填)所名並ニ製造(裝填)年月、種目番號等ヲ出來得ル限リ詳細ニ記入スルヲ要ス

試験検査ヲ承諾セラレタルトキハ其提供スヘキ員數ヲ造兵部ヨリ通知セラルルヲ以テ其必要數ヲ擇出シ之ヲ關係造兵部工場ニ送附スヘシ

但シ此等ノ授受ニ關シテハ何等正規ノ證書類ヲ交換セサルヲ以テ最初現品ヲ送付スル

トキ明細ニ記註シ置クヲ要ス

前記ノ試験、検査ニ於テ消耗シタルモノニ對シテハ検査官ヨリ其消耗通牒ヲ發スルモノトス故ニ兵備品取扱主任ハ之ニヨリ普通兵器消耗後ノ手續同様ノ消耗報告ヲナシ否ラサルモノニシテ検査ノ結果良好ナルモノハ再ヒ之ヲ本艦艇等ニ戻入スヘシ

若シ其結果不合格ナルトキハ當ニ該試験、検査ニ供シタルモノノミナラス同種品全部若ハ一部分ノ試験検査ヲ再施スルカ或ハ此等ノ引換處理ヲ要スル等ニ検査官ノ檢定ニ依リ決定スルモノトス

海軍工廠長若ハ造兵廠長前記ノ要求ヲ受ケ試験検査ヲ施行シタルトキハ其成績表一通ヲ試験要求元ニ交付スルモノトス

第二十六 艦艇ノ供用兵器中大砲ノ如キ本艦ノ勢力ニ關スルモノヲ修理若ハ試験、検査等ノタメ一時揚陸セントスルトキ及之ヲ搭載シタルトキハ其艦艇長(艦艇長ナキトキハ之ニ準スルモノ)ハ其都度直ニ現狀報告用紙ヲ以テ海軍大臣ニ報告スルヲ要ス

第二十七 兵器ノ出納受拂ニ關シ兵備品會計規程及兵器經理規程ニ基キ分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ノ設備スヘキ帳簿ハ左ノ如シ

一、兵器原簿 兵備品會計規程第二號書式

- 二、備品受拂簿 兵備品會計規程第五號書式
 - 三、第一種消耗品受拂簿 同
 - 四、備品供用簿 兵器經理規程第九號書式
 - 五、第一種消耗品拂出簿 同 第八號書式
 - 六、第二種消耗品拂出簿 同
- 此等ノ帳簿ヲ作製スヘキ用紙ハ主計長主管ヨリ供給ヲ受クルモノトス
 此等ノ帳簿中一、二、三ハ必スシモ毎年度ニ更製スルヲ要セス内部餘白ノ存スル限り製
 用スルコトヲ得

備品及第一種消耗品ノ品種少數ナルトキハ其受拂ハ一帳簿ニテ整理スルモ妨ケナシ然ル
 トキハ明カニ其口別ヲナシ置クヲ要ス
 消耗品ノ拂出ヲナストキハ監督者若ハ先任者ニ交付シ拂出簿ニ捺印セシメ毎月末ニ其消
 耗高ヲ合計シ第二種消耗品ハ原簿ニ第一種消耗品ハ受拂簿ニ登記計算スヘシ
 備品ヲ各自ノ使用ニ供スルトキハ必ス備品供用簿ニ登記シ受領者ノ印ヲ徴スヘシ但シ監
 督者ニ一併ニ交付スルモ妨ケナシ假令ハ小銃拳銃ノ如キハ各自ニ交付シ大砲及其附屬具
 ノ如キハ砲搭長ニ交付スルカ或ハ該砲臺長ニ一併ニ交付スルヲ得ルカ如シ

兵器經理規程第三十八條ノ場合即チ彈藥火工品類ノ試驗検査ヲ請求シ其消耗シタルモノ
 ニ對シテハ検査官ヨリノ消耗通牒ヲ證據トシ受拂簿ヲ整理スルヲ要ス
 年度末及分任兵備品會計官吏交代ノトキハ必ス原簿ヲ締切ルヲ要ス
 但シ交代ノ際後任者一併ニ報告書調製ノ場合ハ一線ヲ横書シ前任官吏ニ係ハルモノヲ合
 計シ後任者ハ引續キ記帳スルモノトス
 受拂簿ノ締切整理方モ總テ前項ニ準スヘシ但シ備品ノ帳簿ニ在テハ年度締切ヲ爲ササル
 モノトス

第二十八 兵器ノ出納受拂ニ關シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ノ定期若ハ其都
 度提出スヘキ報告書類調査方法及提出手續等ハ概略左ノ如シ

兵器受拂報告書 兵備品會計規程第十四號書式
 此報告書ハ兵備品會計規程第三十七條ニ基キ分任兵備品會計官吏ノ所掌ナル第二種消耗
 品ノ受拂ヲ會計検査院ニ報告スルモノニシテ一通ヲ調製シ之ニ所轄長ノ認定セル事由書
 (兵備品會計規程第十六號書式)及檢閱官ノ證明書(兵備品會計規程第十五號書式)ヲ添ヘ
 年度經過後一箇月以内ニ所屬ノ海軍工廠造兵部へ提出スルヲ要ス
 該年度(管理期間)内ニ第二種消耗品ノ亡失、毀損、腐敗、損廢、減耗、棄却、燒却、賣

却等ノ事故ヲ生セサリシトキハ事由書ヲ添附スルニ及ハス
證明書ハ檢閲官ノ調製スヘキモノナルモ便宜上分任兵備品會計官吏ニテ作り添ユルモノ
トス

分任兵備品會計官吏交代ヲナシタルトキ又ハ前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ報告
書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ他ノ官吏ニ報告書調製ヲ命セララルモノトス然ルト
キハ受命若ハ交代ノ日ヨリ一箇月以内ニ其管理期間ノ受拂報告書ヲ提出スルヲ要ス
但シ交代ノトキハ各別ニ報告書ヲ調製セス後任官吏一併ニナスコトヲ得此場合ニ於テハ
末尾ニ各官吏執行ノ管理期ヲ記載シ後任官吏署名捺印ス代理官ヲ命セラレタルトキ又同
シ

消耗兵器消耗報告

兵器經理規程第七號書式

此報告ハ兵器經理規程第三十五條ニ基キ前月中ニ消耗シタル消耗兵器ノミヲ掲記シ二通
ヲ調製シ毎月五日迄ニ所屬兵備品會計官吏ニ提出スルヲ要ス

前月中消耗皆無ナルトキハ其旨ヲ所屬兵備品會計官吏ニ報告スルヲ要ス

備品消耗報告

兵器經理規程第十號書式

此報告ハ兵器經理規程第三十七條ニ基キ砲射擊規則(目下ハ艦砲射擊規則ト稱ス)其他

ノ事由ニ依リ備品ヲ消耗シタルトキニ限り二通ヲ調製シ所屬兵備品會計官吏ニ提出スル
ヲ要ス

此報告ハ消耗ノ都度直ニ提出スヘキモノナルモ戰時ノ如キ屢々消耗ノ必要アルトキハ消
耗兵器ニ準シ前月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ提出スルモ妨ケナシ

第二十九 前條ノ諸報告書ハ艦團其他各部ノ庶務課ニ於テ各主管(航海長、砲術長、水雷
長、機關長等)ノモノヲ取纏メ所要ノ向キニ進達スヘキヲ以テ調製後該課ニ移牒スヘシ
又此等用紙ハ主計長主管ヨリ供給ヲ受クルモノトス

四十口径安式十五擲速

年月日	摘要	證憑 番號	單 價	受ノ部			價格
				越高	ヨリ 主任 買入	價格	
41. 4 1	前度年度ヨリ越高			100			10 000
6 1	何々庫ヨリ受	1	120		50		6 000
" 30	六月中支拂高						
" "	何々ニヨリ何庫へ還納	5					
8 10	何庫ヨリ受	10	150		100		15 000
	田代中佐取扱高			100	150		31 000
9 1	何庫ヨリ受	15	110		10		1 100
12. 2 28	二月中支拂高						
	掃高			100	160		32 100
4 1	前年度ヨリ越高			130			17 720

射砲制進鐳革環坐

個

平均 單價	拂ノ部				殘			
	消耗	亡失	毀損	還納	價格	各地 送遺	計	
							在庫	數量
100						100	100	10 000
106						150	150	16 000
	10				1060	140	140	14 940
			100		10 600	20	20	4 340
133						140	140	19 340
	10		100		11 660			
136						150	150	20 440
	20				2 720	130	130	17 720
	30		100		14 380			
136						130	130	17 720

備考
 一、冒頭品名ノ記入ハ送付票ニ據ルヘシ以下做之
 二、各地送遺欄内ノ記入法其他必要ナル記事ハ受拂簿書式及經營簿品ノ原簿内ニ於ケルモノヲ参照スヘシ
 三、平均單價ノ計算ニ於テ毛位以下ニ端數ヲ生スル場合ハ從來ノ如ク四捨五入法ニ據ラズ毛位以下ハ總テ之ヲ切捨ツルモノトス
 若シ帳簿殘高全部拂出ヲ要スル場合ニ於テ平均單價ニ毛位以下ノ端數ヲ生スル場合ニハ其代價全部ヲ拂出シ本簿及證憑書ニ切上ノ事由ヲ朱書スルヲ要ス
 假令ハ本例ノ終末ヲ按スルニ平均單價ニ由ル百三十個ノ代價ハ十七圓六十八錢トナルモ實際ノ代價ハ十七圓七十二錢ナルヲ以テ若シ全部拂切ノ場合ニハ此十七圓七十二錢ヲ拂切ルモノトス

明治四十一年度

砲術長主管

(1)

兵 器

原 簿

軍 艦 香 取

此間ハ多少餘裕ヲ存シ帳簿ヲ連年總用スルト
キ順次其年度ヲ追記スルヲ可トス以下做之

備考

- 一、本簿ハ分任兵備品會計官吏ニ於テ設備シ兵器ノ第二種消耗品ヲ整理スヘキモノトス
- 二、一帳簿ヲ餘白ノ存スル限リ連年總用スルトキハ累次其年度ヲ追記スルカ若クハ何年度以降トスルモ可ナリ以下做之
- 三、兵備品ノ肩何々長主管ノ文字ハ兵器及需品ノ如キ同一兵備品ノ取扱主任數人アルモノニ限リ記載スルモノトス以下做之

(1)

明治四十年 度

砲術長主管

兵器備品供用簿

備考

供用者ノ官氏名ハ必ス本人ヲシテ記載セシムヘシ

軍艦鹿島

一五七

(1)

明治四十年 度

砲術長主管

兵器第一種消耗品拂出簿

備考

第二種消耗品拂出簿モ之ニ同シ

軍艦香取

一五六

四十口径安式十五拵速

年月日	摘要	證番 憑號
11. 5. 20	教練射擊施行ノタメ生出	
5. 31	横武庫へ還納	12

射砲打殻藥莢

個

受	拂	残
120		120
	120	0

備考

受欄數量ノ記入ハ還納ノ手續ヲナシ其
領收票ヲ得タル後ニ於テスルヲ可トス

明治四十一年度 兵器 受拂證明候也

リ年度内ニ交代ナキトキノ例
自明治四十一年四月一日分任兵備品會計官吏右川秀三郎
至明治四十一年九月三十日
自明治四十一年十月一日分任兵備品會計官吏 氏名④
至明治四十二年三月卅一日

ナ年度内ニ交代ナキトキノ例
分任兵備品會計官吏 氏 名 ④

本受拂報告書ノ金額ト物品出納簿ノ金額ト符合ス
ルコトハ本官之ヲ保證ス

明治四十二年四月十五日

海軍砲術學校長海軍大佐 奥宮衛④

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎殿

備考
實用紙ニ記入ノ際最上行
兵備品ノ三字ハ横線ニ條
ヲ以テ塗抹シ其左方ノ空
位ニ兵器ト記入スルヲ可
トス

明治四十一年度以降

消耗上生出兵器

受 拂 簿

軍 艦 何 々

要目	受之部				
	越高	主官ヨ受 任吏リ	買入		計
	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘
砲銃ノ部第二種消耗品	50000	100000			150000
計					

拂之部						残摘要	
消耗	亡失	毀損	還納		計		
円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘
70000			10000		80000	70000	

備考
一 要目欄ニハ品名ヲ列記セス本例
ノ如ク科目ノミヲ記入スヘシ
二 代價ハ受拂殘共各品目ノ合計金
額ヲ掲上スヘシ

明治四十一年度

兵器受拂報告書

砲衛長主管

海軍砲衛學校

備考

交代其他ノ事故等ニテ一年度ヲ通セサル報告ヲ調製スルトキハ本表紙
自明治四十年何月何日 明治四十年何月何日
至明治四十年何月何日 ト記スヘシ
末葉初行 通張 書簿ノ處亦同シ

亡失事由書

一金五十六圓七十錢

亡失品合計

内譯

金三十二圓七十錢

革環坐類

但シ本艦沈没ニ付

金二十四圓

廢物彈丸類

但シ敵彈ノ爲メ本品類收藏庫毀壞ニ付

合計金五十六圓七十錢

右之通相違無之候也

明治四十年何月何日

分任兵備品會計官吏 氏名

會計検査院長宛

氏名

右證明候也

某艦長 氏名

備考

年度内若クハ或ル報告期間ニ亡失品アリタルトキハ受拂報告書ニ本事由書ヲ添付スルヲ要ス毀損、腐敗、損鹿、減耗、棄却、燒却、賣却等事項アリタルトキ又同シ但シ初行「事由書」ノ上ニ當該事故ヲ記入スヘシ假令ハ「棄却事由書」若ハ「亡失毀損棄却事由書」等ノ如シ

兵器出納證明書

海軍砲術學校分任兵備品會計官吏砲術長海軍少佐石川秀三郎外一名保管ノ兵器明治四十一年度間ノ出納ヲ檢覈候處受拂代價別紙ノ通ニ有之其數量ノ正確ナルコトハ本官保證候也

明治四十二年四月十七日

檢閱官横須賀海軍經理部長海軍主計大監氏名印

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎殿

備考 一、年度内ニ分任兵備品會計官吏交代ナキトキハ「外一人」云々ヲ要セス
二、分任兵備品會計官吏交代其他ノ事故等ニテ一年度ヲ通セサル報告書ヲ調製スルトキハ「明治四十一年度」ヲ「自明治何年何月何日」ト記スヘシ

明治四十一年度兵器受拂代價

一金五十圓	前年度ヨリ越高
一金百圓	本年度受入高
計金百五十圓	本年度支拂高
一金八十圓	本年度末現在高
差引	
金七十圓	

備考 分任兵備品會計官吏交代其他ノ事故等ニテ一年度ヲ通セサル報告書ヲ調製スルトキハ初行「明治四十一年度」ヲ「自明治何年何月何日」ト記シ以下各行ニ於ケル「本年度」ヲ「自明治何年何月何日」トシ又終行本年度末ヲ「明治何年何月何日」トス

消耗兵器消耗報告 明治四十一年十月分 砲衛長主管之部

軍 艦 八 雲

第 九 號	品 名	數 量	事 由
	四十口徑安式十五磅總射砲	24個	何々射撃ノ爲メ消柱
	同 砲 裝 藥 上 倉	25個	同 但 内 射 撃 個 不 發 信 號 ノ 爲 メ 棄 却

前書ノ物品消耗候條及報告候也 兵備品取扱主任砲衛長氏名印
 明治四十一年十一月一日 兵備品取扱主任砲衛長氏名印
 兵備品會計官吏横須賀海軍工廠造兵部武庫主管氏名殿

備考
 一種消耗品トニ種消耗品トハ成ルヘク各別紙ニ調製スルヲ可ク
 久若シ併記セントスルトキハ同種品自ラ一部分ニ調製スルヲ可
 明カナラシムル爲メ適宜ニ空行ヲ存スルヲ可トス又併記ノ
 場合ニ於テハ砲衛長ノ肩書ヲ併記スルニ由リテ其ノ詳ニ
 如ク記スヘシ

備 品 消 耗 報 告

軍 艦 朝 日

第 貳 號	品 名	數 量	單 價	代 價	價 事	事 由
	四十口徑安式十五磅總射砲	2個				四十二年艦砲射撃用砲 總年額表ニ基キ消柱
	同 砲 裝 藥 上 倉	2個				同
	同 砲 裝 藥 上 倉	2個				同
	同 砲 裝 藥 上 倉	2個				同

前書ノ物品消耗候條此段及報告候也 兵備品取扱主任砲衛長村上銀吉印
 明治四十一年十月一日 兵備品取扱主任砲衛長村上銀吉印
 兵備品會計官吏横須賀海軍工廠造兵部武庫主管水科三十郎殿

